2007年２月10日発行通巻第50号

「長期投資仲間」通信 For a Better Life

インベストライフ

2

2007 Vol.50

■《生活者の長期投資元年》

投資ルネッサンス2007

いま、本格的長期運用がはじまる●個人投資家宣言採択

■《東京インベストライフ・セミナー》第6回誌上ライブ

仮説）投資は文化である

クラブ・インベストライフ会報誌

インベストライフ

2007 Vol.50 **2**

Contents

4 NEWS
《生活者の長期投資元年》投資ルネッサンス2007開催
- 写真でつづる　投資ルネッサンス2007レポート
- 個人投資家宣言
- 「個人投資家宣言」と「五箇条の御誓文」原案 ―由利公正のこと―　伊藤　宏一

14 誌上ライブ《東京インベストライフ・セミナー》
仮説）投資は文化である
ファンドマネジャー　村山甲三郎
講師：村山甲三郎、菱川精記、速水禎、菅淑郎、岡本和久（司会）

2 **My Favorite Things**　田中　勝
人生のためのクラシックス②
ドヴォルザーク　チェロ協奏曲　伊藤　宏一

20 考察●長期投資と投資信託
庶民派の投信が続々と産声をあげる　澤上　篤人

22 《新連載》 金融の歴史と長期投資(1)
長期投資にとって大切な金融の歴史　平山　賢一

23 私の長期投資哲学⑥
収穫のチャンスを待つ投資　河野（かわの）　信一郎

24 資産運用　「きほん」の「き」
■仕事が一番
■シンプルな生活が資産形成の基礎　岡本　和久

26 航海燈　第20回　株主総会（下）　速水　禎

27 長期投資家のたまごたちへ
オーナーの優待　菅　淑郎

28 《お知らせ》
東京インベストライフ・セミナー年間日程
「全国各地で開催される」インベストライフ・セミナー in サロンのご案内 / 沼津・京都
クラブ・インベストライフの本屋さん開店
更新と年会費の振込みについて

30 **BOOK**
『長期投資をはじめるなら50歳が旬』

31 《東京インベストライフ・セミナー》のご案内
次号予告　今月の表紙　編集後記　お知らせ

Raindrops on roses and whiskers on kittens
Bright copper kettles and warm woolen mittens
These are a few of my favorite things

My Favorite Things

北海道の美瑛で、廃校をルネッサンス

田中　勝

（㈱美瑛の学び舎 代表／62歳（北海道））

私は06年７月に北海道美瑛町に移住し９月に会社を設立。町と廃校を借りる契約を締結して、現在07年５月の事業開始に向けて準備中です。事業は、元小学校を、セミナーハウスやスポーツの合宿練習場、そして仲間で趣味を楽しんでもらう場として提供していこうというものです。美瑛町に限らず廃校の活用に悩んでいる自治体は数多くあります。そのほとんどが過疎、少子高齢化、農村地区などで、人がなかなか来ない場所にあり、何か策を講じない限り人が集まりません。

従来も軽井沢での緑陰セミナーなどがありますが、「テーマを選んで、旅行を兼ねて北海道に学びに行く」という新しいスタイルを提供したいのです。特に、定年を迎える団塊世代は、知的好奇心に富み、経済的な余裕があるうえ、健康面でも元気一杯です。「学びのために旅行する」というスタイルに賛同してもらえるものと考えています。

提供するテーマの一つに「資産運用講座」があります。クラブ・インベストライフの提唱する「品格のある投資家」を目指して、まず夫婦で人生設計を検討し、それに合ったアセットアロケーションを作っていくということを具体的に展開したいと思っています（そのほかには「経済財政白書の

自分が大好きなものを、ちょっとおすそ分けしていただくページです。ものごとの魅力は、それをこよなく愛する人に伺うのがいちばん！　編集委員はもちろん、会員の方にもぜひ参加いただきたいと思っています。
あなたの favorite things（お気に入り）は何でしょう？

勉強会」「理科の勉強会」などを想定)。

特に定年は夫婦にとって大きな転機です。この機会に二人で今後の過ごし方を相談し、そのためにどのように資産を運用するかを決めることは重要です。しかし、夫婦だけでは日常の延長となり、改めて話し合うことは難しいものです。そこで、日ごろと違う場所で、第三者が入ってテーマを設定し、発表を前提にして……と、否が応でも話し合う場を提供するのです。もちろん同時に資産運用の基本知識なども学んでいきます。これらが、人生の第三ステージの幸せに繋(つな)がっていくものと確信しています。夫婦で、北海道旅行と資産運用講座受講と陶芸や味噌造りといったいろいろなおもしろ体験の三つが一度にできますので、定年記念旅行にうってつけでしょう。

こんな形でお役に立てる事業が展開できれば、当初３年間の赤字も覚悟出来ます。

事業が始まったら、改めてご報告したいと思っていますし、クラブ・インベストライフのセミナー開催など、いろいろな展開を考えていきたいと思ってます。

住所：071-0353 北海道上川郡美瑛町俵真布
TEL＆Fax：0166-96-2133
E.メール：masaru.124@jcom.home.ne.jp

♪人生のためのクラシックス♪　No.2

ドヴォルザーク　チェロ協奏曲

【CD】
チェロ／ジャクリーヌ・デュ・プレ
チャールズ・グローブス指揮
ロイヤル・リバプール・フィルハーモニー
2004年発売　BBCL4156
1969年７月25日ライブ録音
UK輸入盤　2,259円　hmv.co.jpにて

24歳の女性がなぜこんなに気迫に満ち、同時に深く人間的で、温かさにあふれ、いとおしく情熱的な演奏ができるのだろうか。４歳のときにラジオでチェロを聴いて、「あの音を出してみたい」といった少女が５歳から始めたチェロ。その花は見事に10代から天才的な開花をした。しかし28歳の若さで、不幸にしてそのころ不治の病だった多発性硬化症（ＭＳ）となり、42歳でこの世を去る。ジャッキーことジャクリーヌ・デュ・プレ……。ちなみに多発性硬化症は最近、日本でも若い女性のなかで増えつつあるが、ジャッキーのころと比べて治療法が格段に進化している（www.ms-campaign.jp）。

さてジャッキーにはドヴォルザークのこの協奏曲の録音が三種類あるが、私のお気に入りはプロムスでのライブ録音盤だ。第一楽章冒頭の激しい気迫、第一楽章第二主題の想いのこもった表現から始まり、グローブスの骨格のはっきりした指揮に支えられて、郷愁を誘う第二楽章、壮大に展開する第三楽章と、全編がスケール大きく展開していく。本当に稀有(けう)な演奏だ。チェロは、豊かで力強くも繊細な音を醸し出す名器ストラディバリウス。

この曲はアメリカ滞在中に書かれ、「新世界」「アメリカ」と並ぶこの時期の代表作（本誌2005年10月号参照）であり、チェロ協奏曲の傑作だ。第三楽章では黒人霊歌の旋律とボヘミアの民俗舞曲のリズムが巧みに生かされている。

【伊藤　宏一】

NEWS ● クラブ・インベストライフ　特別イベント ●

《生活者の長期投資元年》

投資ルネッサンス2007

いま、本格的長期運用がはじまる

1月14日、銀座ブロッサム中央会館にて、クラブ・インベストライフの特別イベント、1.14　さあ、銀座に集まろう!「投資ルネッサンス2007　～いま、本格的長期運用がはじまる～」を開催し、400人弱の個人投資家とともに、長期投資について考える機会を持つことができた。

長期投資を日本に根付かせたいと取り組んできたクラブ・インベストライフの編集委員10人は、2007年を「生活者の長期投資元年」と位置づけ、生活者が経済的自立を達成し、真に豊かで幸せな人生を送るための手段として、長期投資がいかに有効かを強く訴えた。

また、「個人投資家宣言」を提案し、日々のマーケットの動きに右往左往することなく、のんびりゆったり長期投資を続けていくための心得を確認し合った。

ゲストとして、㈱大和総研経営戦略研究所主任研究員　河口真理子氏、月刊『投資信託事情』発行人・編集責任者　島田知保氏、シンクタンク・ソフィアバンク副代表　藤沢久美氏をお招きし、対談にご参加いただいた。それぞれの専門分野から率直なご提言をいただくことで、参加者に理解を深めていただくたいへん貴重な機会となった。

会場は、全国各地から想いと志のあるメンバーが参集し、編集委員やゲストとの交流をはじめ、地域の長期投資仲間の輪を広げる会員同士の交流の場ともなった。

参加者から、当日のアンケートやメールにて、たくさんの声が寄せられ、長期投資の輪が広がっていく手ごたえを感じさせる一日となった。

2007年1月14日(日)
会場:銀座ブロッサム
中央会館

第一部　セミナープログラム　会場ホール

▶**開会のあいさつ**　クラブ・インベストライフ編集主幹　**伊藤　宏一**

▶**対談　企業と投資家がよい会社と生活をつくる**（12：05～12：45）
ゲストスピーカー　**河口真理子**氏（㈱大和総研経営戦略研究所主任研究員）
伊藤　宏一（千葉商科大学大学院教授 クラブ・インベストライフ編集主幹）

▶**対談　ホンネで語る 個人投資家のための長期投資実践法**（12：50～13：30）
ゲストスピーカー　**島田　知保**氏（月刊『投資信託事情』発行人・編集責任者）
岡本　和久（I-Oウェルス・アドバイザーズ㈱代表取締役　クラブ・インベストライフ編集委員）

―――《休憩　約15分》―――

▶**パネルディスカッション**
2007年 個人投資家新時代がはじまる 個人投資家宣言採択（13：45～14：55）
クラブ・インベストライフ編集委員　伊藤　宏一・澤上　篤人・村山甲三郎
真壁　昭夫・菱川　精記・渋澤　健
平山　賢一・速水　禎・菅　淑郎
岡本　和久

▶**対談　長期投資ででっかい夢を描こう**（15：10～15：55）
ゲストスピーカー　**藤沢　久美**氏（シンクタンク・ソフィアバンク副代表）
澤上　篤人（さわかみ投信㈱代表取締役 クラブ・インベストライフ編集委員）

▶**閉会のあいさつ**　クラブ・インベストライフ編集委員　**岡本　和久**

第二部　懇親会 7階　マーガレットの間

16時30分～18時30分（受付開始16時15分）

第一部　セミナー

◆開会のあいさつ

伊藤宏一編集主幹

▶会場は大いに盛り上がった

◆対談　企業と投資家がよい会社と生活をつくる

伊藤宏一編集主幹

河口真理子氏

▶CSRをご専門とする河口真理子氏をお迎えし、理想の社会作りを視野に入れた個人投資家の行動、具体的には社会的責任を果たしている企業に投資をすることの重要性について話し合われた。投資を単なる儲けの手段として捉えるのではなく、社会作りを行う“一票”として行使することによって、社会を変えていくことができるとの提言が、事例を出して示された。

司会：小原隆子氏
キャスター・エッセイスト

◆対談　ホンネで語る　個人投資家のための長期投資実践法

岡本和久編集委員

島田知保氏

▶日々、投資信託を研究・評価されている島田知保氏をお迎えし、個人投資家が投資信託とどのように付き合っていけばいいのかメリットとリスクについて示された。とくに、資産運用に欠かせないアセット・アロケーションにおける投資信託の活用法をはじめ、販売手数料・信託報酬といったコスト面についての考え方など、きめ細やかな指摘がなされた。

《アンケートから》

対談　企業と投資家がよい会社と生活をつくる

- 消費者、投資家としての行動がいかに重要であり、その自覚が欠けているかを再認識した。
- 日本はCSRという言葉よりも、近江商人など、日本の過去にあるよい文化に学び、みんなでよい社会をつくっていかなければならないと思いました。
- 「質の良い儲け方」が求められる時代であることを認識。
- 投資と環境、興味深く聞かせていただきました。社会的に貢献する企業を応援したいと思います。
- お金が使われた後、どのように流れるか、社会全体にどのようにインパクトを与えるか、という視点が興味深かったです。
- いろいろな立場、業界に、素直な考え方、何が大切かをわかっている方がいることをうれしく思いました。
- よい社会とは「すべての命を尊敬する」社会というのがとても印象的でした。自分自身が一企業人、一生活者としてスタンスを持って、よりよい社会を作ることに取り組んでいきたい。これからの企業のあり方と投資の本来の意味について理解できました。

対談　ホンネで語る　個人投資家のための長期投資実践法

- 改めて投信を勉強したいと思いました。最近は種類も多く、少々遠避けていましたが資産運用の一つのツールとして見直したいと思います。
- アセットアロケーション、特に弁当箱にたとえた話が興味深かった。自分はまだ20代でリスク資産ばかり持っていることに関して再考していたので。
- 投信を選ぶ上でのエッセンスが聞けておもしろかったし、実践上、頭のすみに入れておくべきことがわかりました。
- 仕事でも、人生でも、長期投資でも、ビック・ピクチャーを描くことの重要性と楽しさ。単なるお金儲けではなく、そこに思想を持つということがわかった。
- これから投資をしていこうと思う人間にとって、どんな罠にはまってはいけないなど、わかりやすく話してくださって大変よかった。
- 投信のコスト、さらに信託報酬の中身についてわかってきた。
- 各論的にはすこし興味深い。「長期投資と長期放置はちがう」はおもしろい。

◆パネルディスカッション
2007年　個人投資家新時代がはじまる　個人投資家宣言採択

▲10人の編集委員によるパネルディスカッション
※詳細は、８ページ～13ページ参照

伊藤宏一

渋澤　健

村山甲三郎

平山賢一

真壁昭夫

澤上篤人

速水　禎

菱川精記

菅　淑郎

岡本和久

◆対談　長期投資ででっかい夢を描こう

澤上篤人編集委員

藤沢久美氏

▶個人投資家のあり方について提言されている藤沢久美氏をお迎えし、長期投資が日本社会に何をもたらすのか、その可能性について話し合われた。まだ、国内では少数派とはいえ、今後長期投資家が増えることによって各自の経済的自立が図られる。それに伴って、社会的貢献に自分の資産を使っていきたいという仲間が、クラブ・インベストライフをはじめ増えつつあることが確認された。

◆閉会のあいさつ

岡本和久編集委員

パネルディスカッション　2007年　個人投資家新時代がはじまる　個人投資家宣言採択

- 自分の心のなかのどこかに、やはり金持ちになりたいという気持ちがあり、そういった気持ちも悪いことではないと思うが、それが大きくなってきたときには個人投資家宣言を読み返し、心の拠りどころとしたい。
- 結果的にどういう人生をおくりたいのかということを考えていきたい。
- 「志」は大切だとあらためて実感した次第です。この歴史的な場面に出会えたことに感謝申し上げます。
- 自分自身が長期投資の司令塔となり、実践していくための道標となりました。今後の投資の指標としていきたいと思います。
- いつも基本（理念）を忘れず、基本に帰るスタンスが好きです。これからも応援し、小生も力を得たいと思います。
- 普通は建て前が多いと思いますが、信念に基づいて作られていると感心しました。
- 品格あるパネリストの討論楽しかったです。大変楽天的で励ましになりました。
- 利害なく正しい道すじの勉強が出来るチャンスが、やっと私たち弱者にも出来たことがうれしい。めぐり合えたことに感謝してます。
- 「お金」を賤しいもの、汚いものにするか、人生の「幸せ、心の豊かさ」の手段にするかは、持ち主の品格次第であることが改めて確認できてうれしゅうございました。10人の講師の方々の人生観から出る意識的な言葉に触発され、自己認識の確認をさせていただき、新年からよい経験をさせていただきました。

対　談　長期投資ででっかい夢を描こう

- 庶民は、時間を味方にすることが大事ということがよく理解できた。
- 「お金に働いてもらう」という認識がなかったので、信頼や安心感が持てるところにまかせてみたいと思います。
- 長期投資の環境の変化、将来が見えてきたように感じました。
- 夢があるということは素晴らしい。自分も自分の人生を全てかけるだけの夢、志を持ちたいと思いました。
- 新しい型の投信（おらが町投信）やヴィレッジ構想が興味深かった。
- 単純明快で長期投資の本質を突いていると思った。明るく希望を持てる内容で、こういう話が聞きたかった。
- 私でも世の中の役に立つなんてウキウキしてくる。
- 実際に投資を実行に移すきっかけになりました。勇気と元気が出ました。
- 本格的な長期運用の醍醐味を改めて感じることができた。将来が大いに楽しみ。今後も前進あるのみ。

第二部　懇親会

セミナーに引き続き、銀座ブロッサム７階の宴会場にて、140名強の参加を得て、懇親会が開催された。

伊藤宏一編集主幹の開会の挨拶で幕を開けた懇親会は、編集委員やゲストスピーカーとワイン片手にお話しできるという貴重な機会となった。また、全国から久しぶりに集うことのできた会員同士で旧交を温めたり、新たな出会いがあったりと、おおいに盛り上がりを見せた。

編集委員、各サロン関係者やセミナー開催の協力者などが次々に壇上に立ち、各地の様子やセミナーへの感想を発表くださり、笑いの堪えない楽しい会となった。また、この席で、新たに静岡にサロン・フジヤマの設立のお約束をいただくなど、うれしいサプライズもあった。

また、どこかでお会いすることを誓って、盛会のうちに終了した。

◀乾杯のあいさつ
澤上編集委員

▲開会のあいさつ
伊藤編集主幹

ごあいさつ▶
平山編集委員

◆サロン関係者や各地の協力会員から各地の報告が……

▲伊藤編集主幹

◆絶妙なコンビネーションで、会を盛り上げてくださった司会名トリオ

◀左から、
中井朱美さん
（大阪サロン）、
菅編集委員、
石津史子さん
（大阪サロン）

◆イベントスタッフとして、全面的にバックアップくださったさわかみ塾の皆さん

◆お客様と談笑する編集委員

◀菱川編集委員
（左）

▲
渋澤編集委員

速水編集委員▶
（右）

▲岡本編集委員

▲村山編集委員

◆抽選会で、編集委員の著作セットを10名様にプレゼント

▲岡本編集委員

左から▶
藤沢久美様、
島田知保様、
河口真理子様

◀プレゼンターとして、セミナーでご活躍いただいたゲストスピーカー３人もご参加くださって

◆閉会の挨拶

▲村山編集委員

◆名残を惜しむように記念撮影に応じる編集委員

▲真壁編集委員（左）、
伊藤編集主幹（右）

▲澤上編集委員（左）、
菱川編集委員（左から２人目）、
伊藤編集主幹（右から２人目）、
菅編集委員（右）

《全体に対する感想》

- 正直、まだまだ長期投資についてわかっているようでわかっていない状態です。クラブ・インベストライフを通して勉強していきたい。
- 21世紀に活動する女性の話は大変魅力的だ。
- 志を持ったお一人お一人の言葉はとても貴重でこれからの人生にとってとても参考になりました。そして、私も含め一人一人がみんなでとりくむことが日本を良くする為に大切なことであると、あらためて感じた次第です。
- 実際的であり信念があり夢があり、無私の思いがキラキラしています。精神的にも師として頑張ります。
- 国内で個人投資家のパワーを活かす、結集する貴重なきっかけの場になると思う。一年毎ぐらいで定期的にやってほしい。
- 今日つくづくもっと早く長期投資をすればよかったと思いました。父のファンド、株での損失が有ったので、始めるまで時間がかかりました。
- スタンスにぶれがないことがとても重要だということがわかりました。講演に一貫性があり、想いがよく伝わってきました。私も金融機関に勤める者として、よい認識を社会に広げていきたいです。そしてまずは自分の行動から変えていきたいです。

個人投資家宣言

１月14日の投資ルネッサンス2007の席上、編集委員10人が提案した「個人投資家宣言」が提案され、参加者の皆様の大きな拍手をもって採択されました。

ここでは、当日、第三部のパネルディスカッションにおいて編集委員が語った、この宣言にかける思いをまとめてみました。

編集委員が個人投資家にわかりやすいかたちで、長期投資の理念を示したものです。ご参加できなかった方も、この宣言の意味を味わって、投資の指針にしていただければと思います。《個人投資家宣言について、ご意見・ご感想がございましたらI-Oウェルス・アドバイザー富田まで。》

【編集委員】
伊藤　宏一（編集主幹）
澤上　篤人、村山甲三郎
真壁　昭夫、菱川　精記
渋澤　　健、平山　賢一
速水　　禎、菅　　淑郎
岡本　和久（司会）

岡本：それでは今日のメイン・イベントともいえる編集委員によるパネル・ディスカッションに入りたいと思います。

私たち、編集委員は、個人投資家が投資を行う際に持つべき基準というか、基本的な理念について過去、数ヵ月にわたって議論をしてきました。それぞれの投資家が異なった投資目的を持ち、また、異なった投資手法、異なった証券市場の前提を持つわけですが投資行動が「健全」であるためにはどのような点を守るべきかを考えてきたわけです。

その結果を五つの項目にまとめました。今日は、このパネル・ディスカッションでそれらをご紹介し、皆様にご提案したいと考えています。

今日は10名の編集委員がおりますので、ひとつの項目に付き、お二人ずつコメントをお願いしたいと思います。まず、第一条ですが、村山さんからお願いできますか？

村山：まず、第一条をお読みします。

「第一条　私たちは、生活の一部として、長期投資を学び実践する」

私はここに三つのキーワードがあると思います。「生活」、「学ぶ」、「実践する」です。

投資とは「大切なおカネを投ずる」、「おカネに働いてもらう」ことです。それから返ってきたリターンを「ありがたいなあ～」と思っていただく。それがわれわれの生活を支えるわけです。また、投資先となる企業も、われわれの生活のなかにあるわけです。つまり、投資は生活の一部なのです。

企業のオーナーになって、一緒に汗を流すつもりで投資をする。それが長期投資です。しかし、投資はただやみくもにおカネを投ずればいいわけではありません。いくつかの基本的なルールとか原則があります。それを学ばないと長期投資のパワーを享受できません。

そして最後が実践。いくら学んでも実践がなければ何の意味もありません。私からは以上ですが、菱川さん、追加コメントをお願いします。

菱川：昔、私が証券会社にいたころ、先輩から「株は短期が基本だ。長期投資というのは短期投資で失敗して、長期塩漬け保有となることを言うものだ」などと言われたものです（笑）。そんなことから、株式には手を出さない方がいいという根強い考え方があります。皆様のなかにも「私は株などやったことがない」という方がいらっしゃるかもしれません。

しかし、直接は投資をしていなくても、社会保険、生命保険、銀行などにある皆様のおカネは、機関投資家を通して証券投資に回っています。その意味では、意識しないうちに、投資はわれわれの生活のなかに入り込んでいるのです。

クラブ・インベストライフが提供しようというのは、どの銘柄を買ったら上がるとか下がるといったことではありません。株式投資とわれわれの人生のかかわり合いについて考えるのです。魚を提供するのではなく、釣りの方法を勉強する。これが目的なのです。

平山：では、第二条にいきます。

「第二条　私たちは、長期投資によって経済的自立と社会貢献を目指す」

いちばん難しそうな条文です。漢字が一番、多い！（笑）

そこで、ちょっと角度を変えてインド独立の父、マハトマ・ガンジーの言葉を引用します。「こんな世の中になってほしいと願うなら、あなた自身がそのように変わらなければならない」――これが第二条のポイントです。

個人投資家宣言

【前　文】

私たちは、幸福で自立的な生活と持続可能な良い社会作りのため、クラブ・インベストライフの呼びかけのもと、本日、全国から東京に集い、熱心な議論を行った。

その結果、自立的な生活者の長期投資が、日本と世界の未来を切り拓く、「あるべき投資の本流であり大河」であることを確信し、熱き心と高き志を持って、次の五箇条を高らかに宣言する。

第一条　私たちは、生活の一部として、長期投資を学び実践する

第二条　私たちは、長期投資によって経済的自立と社会貢献を目指す

第三条　私たちは、良い社会づくりに貢献する企業を投資によって応援する

第四条　私たちは、投資リターンに心の豊かさも求める

第五条　私たちは、急がずあせらず、ゆったりと投資を行う

二〇〇七年一月十四日
東京・銀座にて
クラブ・インベストライフ主催
「投資ルネッサンス2007」
参加者一同

個人投資家宣言

自分が変われば未来が変わる。まわりも社会も変えていくことができる。

では、どう変わればいいのか。これまでは預金通帳の数字が増えることを願っていた。しかし、これからは社会のためにがんばってくれる企業にゆっくりと投資をする、そのような自分に変わる。

企業の成長とともに、複利効果で自分自身の経済的豊かさも手に入れられる。経済的自立です。

経済的自立ができたら、次は「おかげさんで」という気持ちで「こうなったらいいなと思う社会」になるような「かっこいいおカネの使い方」をする。これが社会貢献です。

このような世の中になったらいいなという思いが実現するように自分がまず変わる、これが第二条だと思います。では、澤上さん、お願いします。

澤上：えらい、かっこよくやっちゃったねえ（笑）。

世の中は、簡単におカネが手に入るようにはできていませんね。個人でも、会社でもみんなそう。しかし、不思議なことに投資だけは、簡単におカネが手に入るように思っている人がほとんど。こんな考え方は、経済の原理から外れている。そこに大きな問題がある。

個人でも、会社でも、まず、自分のおカネを手放すことから始まる。そのおカネが世の中の役に立って、クルクル回って、コローンと戻ってくるのがリターン。リターンって「戻る」ことです。

だから、考え方を変える。初めっから儲けようなどという考えを捨てて、いかに世の中の役に立てるかを考える。「ありがとう」、「良かった」と言われることからはじめる。まず、自分のおカネを手放す。「守る」ではないんです。ひとりで自分を守れるわけがない。それだったら、みんなで一緒に良くなれば良いのです。

その結果として、気がついたら経済的自立を手に入れ、社会貢献ができるようになっている。大事なのはおカネを抱え込まない、できるだけ手放していく意思と行動です。

伊藤：では、第三条です。

「第三条　私たちは、良い社会づくりに貢献する企業を投資によって応援する」

投資は儲けることが最後の目的ではなく、良い生活をすることが目的です。良い生活というのは、良い環境、良いサービスや商品を提供する人がいて、それを享受して豊かな生活をすることです。それを成し遂げてくれる企業を応援しましょう、というのが投資です。逆に言えば、良い社会づくりに貢献しない企業は応援しないということでもあります。

個人投資家は良い企業に一票を投じ、悪い企業にはマーケットから退出してもらう力を持っています。投資は投票なのです。さて、速水さん、どうぞ。

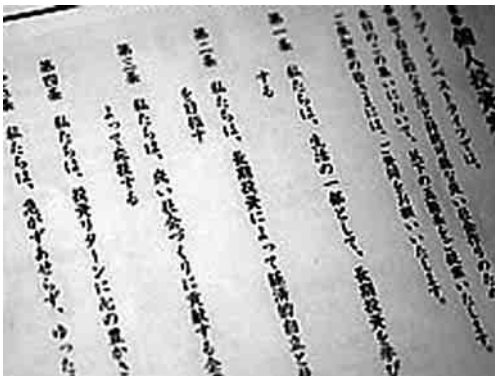
速水：問題は良い企業、応援したい会社はどこにあってどうやって見つけるかということです。

完璧に良い会社は世の中にはありません。それが現実です。私は長期投資の銘柄選びは結婚と同じだと思っています。いちばん大事なのは将来の予測能力ではなく、忍耐力（笑）。これを言うとうちの奥さんに怒られますが、共感される方もおられるでしょう（笑）。

あまり相手に理想ばかり追い求めていると、自分が苦しくなってしまう。身勝手な思いを捨てて、自分だって迷惑をかけているんだと思えば、今度は自分が何かをしてあげるという方向に考えが変わっていく。自分が変わることが大切なのです。

肩に力を入れず、軽い心で、「こんな世の中になったらいいな」と思い描いていると、理想の会社も応援した

▼自立的な生活と持続可能な良い社会作りのために



い会社も向こうからやってきます。そのほうが、長く続けることもできるし、財産も増やすことができます。

皆様が人生と投資の両方において良い相手に出会えることを祈っています。

菅：では、第四条です。

「第四条　私たちは、投資リターンに心の豊かさも求める」

「心の豊かさ」というのは抽象的ですが、二つのことをお話ししたいと思います。

ひとつは経済的自立がすでにできていて、寄付の行為などを始めているという方のことです。自分で世の中や社会に役立てるところに寄付をする。これはすばらしいことです。寄付や献金には感謝とか祝福を感じるものです。そして、とても豊かな気持ちになります。

もうひとつはその前提となる経済的自立に到達するプロセスです。どのような投資をすればそこに行けるかということです。そのために大切なのは自分自身の感覚を磨いておくことです。これは世の中の役に立つな、これはこれから大切だなという感受性を高めておくことです。

投資で得られた収益の喜びを分かち合う格好で寄付や献金ができれば、そこには感謝と祝福の気配が漂い、とても豊かな気持ちになると思います。

岡本：人生の目的はお金持ちになることではありません。それは手段です。目的は最終的には心の豊かさであり、幸せになることです。投資の目的も「お金持ち」になることではなく、「幸せ持ち」になることです。

私は、「I＝O×V」、「心の豊かさ＝おカネに換算できる富×品格」、と考えています。

「I」はインサイド・ウェルス、つまり、内側の富、心の豊かさを表しています。「O」はアウトサイド・ウェルス、外側の富、モノやおカネです。これらは「何円」という形で表現できます。「I」の心の豊かさは、「O」のおカネに換算した金額に、「１円当たりの幸福感」を掛けたものだと思うんです。この「１円当たりの幸福感」は、言い換えれば「価値観」であり、それは「品格」でもあるといえるでしょう。

つまり、外側の富がいくら豊かになっても品格が下がっていったら内側の富はちっとも増えない。これは「おカネの奴隷」になってしまっているからです。

一方、外側の富が増えるに連れて品格が上がる人もいる。この人は「おカネの主人」といえるのだと思うんですよね。第四条はそのことを言っているのだと解釈しています。

渋澤：では、最後の第五条です。

「第五条　私たちは、急がずあせらず、ゆったりと投資を行う」

私は長い間、トレーダーの仕事をやっていました。これはとても楽しい仕事でしたが、常にマーケットとにらみ合い、テンションが高い仕事でした。今の仕事では一日中マーケットとにらみ合うことができる時間がありません。

私が長期投資に目覚めたのは自分の子どもが生まれたときです。彼が成人するまで毎月、積立をしようと思ったのです。

株価チャートを見ると縦軸に金額、横軸に時間がとってあります。トレーダーのときはいつも縦軸を見て、どのくらいになったら売ろうか？ということばかり考えていました。

しかし、子どものための長期投資となると、いくらで売るのではなく、いつ売るのがポイントになって、長い横軸を見るようになった。そうすると、すごく気持ちが楽になりました。

機関投資家はいつも縦軸での勝負を要求されています。しかし、個人投資家は横軸で勝負できます。

いくら儲かっても絶対におカネで買えないものがあり

ます。それは「時間」、特に「過ぎ去った時間」です。われわれは皆、時間を持っている。それを使わないのはもったいない。時間をかけて、それぞれが思い描いた夢を共有できるような会社に投資をしていく。それが私にとっての長期投資だと思っています。

真壁：私は最近まで銀行にいまして、短期のディーリングも長期投資もしてきました。確信をもっていえるのは、短期の方が難しいということです。経済、企業収益が成長していれば、長期的には株価は上昇するわけで、ディーリングで売買するよりも長期の方が勝てる確率がずっと高い。負ける可能性が低い。

情報化の時代ですから、個人投資家と機関投資家を比較しても、情報量はそんなに変わりません。ただし、違うのはその情報を得るスピードです。機関投資家は証券会社などが即座に新しい情報を伝えてくる。個人投資家は翌日の新聞を見て知る。したがってスピードで勝負しても個人はなかなか勝てないのです。

ファンド・マネジャーをしていたときに、個人投資家をうらやましく思っていました。まず、第一に個人投資家に決算がないこと。機関投資家は三ヵ月ごとにパフォーマンス報告をしなければなりません。うまくいっていないときはこれは針のムシロです。二つ目はパフォーマンスが指数と比較される点です。実際に10%儲かっても、市場が15%上がっていれば、負けたことになる。個人投資家は市場と競争する必要がありません。そして、第三に機関投資家は内部の規定がたくさんあったり、委員会などがあって、本当に自分が良いと思う投資がなかなかしにくいということがあげられます。

イギリスのことわざに「Life is not short, as you might think.（あなたが考えるほど人生は短くない）」というのがあります。余裕を持ってゆっくりと歩いていけば良い投資も人生も持てると思います。

岡本：日本の個人は1,500兆円といわれる膨大な金融資産を持っており、その大半が預貯金になって眠っている。そのほんの一部でも、一人ひとりの方が「世の中を良くしてくれる」と思う企業への投資に振り向けられたら、大きな変化が出てくるでしょう。投資によって一票を投じるわけです。企業も持ち合いが減少して個人投資家の「一票の重み」が増してきています。そのような企業は応援を受けて社会のためにがんばってくれる。世の中に必要なことをしている企業ですから成長をする。そして投資家もそのリターンを得て経済的基盤を充実できる。自立をして、さらに余った資金を社会貢献に使っていく。そのような良いメカニズムを長期的な時間軸のなかで達成していこうというのがこの五箇条の骨子ではないかと思います。

同時に一票を投じる個人投資家の品格も問われている。ただ、儲ければいいのだという企業の株価を追っかけまわしている投資家ばかりだと世の中、良くならない。長期的なスタンスで大きな志を持って投資をする個人投資家が増えるほど、本当に世の中がよくなっていく。その意味で個人投資家の責任も重大であると思います。その指針としてこれらの五箇条を提案させていただきました。ここで伊藤編集主幹より個人投資家宣言を会場の皆様に提案させていただきます。

伊藤：最近、ワーク・ライフ・バランスといわれるようになってきましたが、私はワーク・ライフ・マネーバランスが必要なのではないかと思っています。自分の仕事を一生懸命して、家族で愛をはぐくみ、おカネを増やしていかなければならない。しかし、おカネを増やすために終日、パソコンに張り付いて売買しているのでは、仕事も家庭も犠牲になってしまいます。バランスが取れなくなる。それを解決する方法が「ゆったりと長期投資をする」ということだと思います。

と、いうことで個人投資家宣言五箇条を提案します。ご賛同いただける方は大きな拍手をお願いします。

（会場、大きな拍手）

どうもありがとうございました。ここに個人投資家宣言は採択されたものといたします。

長時間ありがとうございました。

「個人投資家宣言」と「五箇条の御誓文」原案
― 由利公正のこと ―

１月14日に開催された「投資ルネッサンス2007」で「個人投資家宣言」が会場の賛同をいただき、採択されました。この「宣言」は編集委員会で議論し、成案ができました。私は、明治元年の「五箇条の御誓文（ごせいもん）」を起草した由利公正（ゆりこうせい）のことを念頭にこの議論に参加したので、今回は「個人投資家宣言」のコメンタールとして、そのことを書きたいと思います。

伊藤　宏一

１、「五箇条の御誓文」原案

明治維新時の「五箇条の御誓文」を起草したのは福井藩出身の由利公正でした。由利の原案はこうなっていました。

一、庶民志を遂げ人心をして倦まざらしむるを欲す。
一、士民心を一にし盛に経綸を行うを要す。
一、知識を世界に求め広く皇基を振起すべし。
一、貢士期限を以って賢才に譲るべし。
一、万機公論に決し私に論ずるなかれ。

これに対して成文は次の通りです。

一、広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ
一、上下心ヲ一ニシテ盛ニ経綸ヲ行フベシ
一、官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ゲ人心ヲシテ倦マザラシメンコトヲ要ス
一、旧来ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クベシ
一、知識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スベシ

由利の原案は「光り輝く原石」です。要するに、庶民が志をとげることに始まり、士民が一緒になって経済を発展させることを主眼としています。そのために知識を広く世界に求め、官僚や政治家などの士は一定期間で職を辞しすぐれた若者に席を譲り、私利を図る議論をせずにフェアで普遍性のある議論をせよ、と言っています。ここには今日私たちが求める、生活者である個人が自分のライフデザインを実現し、そのために経済を発展させるという理念の先駆があると思われます。

成文となった「御誓文」は、由利が作成したこのすぐれた原案を、土佐藩の福岡孝悌（たかちか）が公議政体論の視点から順序と字句を変更し、長州の木戸孝允（たかよし）（桂小五郎）が天皇主権の視点から修正し、原石の輝きが相当失われました。

由利の原案は、由利が親交を結んだ坂本龍馬の「船中八策（せんちゅうはちさく）」からヒントを得ていますが、この「船中八策」には、由利の先生であった横井小楠（しょうなん）の影響があるとされています。

２、由利公正と地域ファイナンス

幕末の各藩の経済状況は大量の失業者の発生、藩財政の困窮といった厳しい状況に直面していました。このなかで由利公正は、福井藩において画期的な政策を実行しました。藩内にのみ流通可能な紙幣、いわゆる藩札の発行による産業振興・地域経済の再生です。

由利は1859年に藩札を５万両発行しました。そのためには、信用の根拠となる正貨を準備する必要がありますが、これは藩内の富裕な農民や商人に資金を拠出させました。そしてこの藩札を養蚕・生糸などの有望な殖産事業に貸し付け、その生産力を高め、良質品を生産しました。由利は師である横井小楠の「財政改革は緊縮財政ではなく産業を積極的に興し他藩や外国と貿易を行い農民を豊かにすることによって藩も豊かになる。民富めば国富む」の視点に共鳴して物産総会所を設立し、商人より高い価格で農民より生糸等の生産物を仕入れ、横浜・長崎に建てた蔵屋敷を通じてオランダ商館に売り込み、大量の正貨収入を得たのです。

入手正貨が３万両に達したころから、藩札の兌換（だかん）を始めて回収を進め、わずか３年にして50万両の金銀備蓄を達成しました。これによって藩財政は立ちなおり、失業も大きく減少したのです。幕末までに244の藩（全体の80％）で藩札が発行されましたが、多くの藩札がハイパーインフレを起こし失敗したなかで、由利の政策は数少ない成功例だったといわれています。

こうして幕末の越前福井藩は、16代藩主松平春嶽による斬新な藩政改革（能力主義の人材登用・洋の東西を問わない学問の奨励・貿易を中心とした経済政策）により、当代随一のいわば「智藩」として注目されました。

この福井藩に興味と期待を抱いたのが坂本龍馬です。龍馬は二度福井を訪れていますが、その二度目は慶応３年（1867）11月２日でした。由利は藩内の対立から５年間自宅に幽閉されていました。用件は財政担当の参与として新政府へのリクルートでした。ちなみに龍馬は、その後京へ帰り15日に無念にも暗殺されました。

３、由利と国家ファイナンス

龍馬の推挙によって、由利は新政府の参与となり、

由利　公正

「御用金穀取扱方」、つまり初の大蔵大臣に就任しました。倒幕を果たした新政府財政は苦しいものでしたが、由利は政府初の不換紙幣（銀行券ではなく「太政官符」という政府紙幣）を大量発行し、文明開化政策などによって有効需要を創出しインフレなき財政再建をはかります。

明治４年（1871）、初代東京府知事に就任。同７年には『民選議院設立建白書』に署名し国会開設を主導しました。公正は東京府知事就任後、大火災に遭った東京の都市計画も手掛け防災の視点で考えられたレンガの銀座通りを造りました。今でもその一角（中央区銀座1-11-2テアトル銀座正面左）に、由利の業績を讃える「煉瓦銀座之碑」があります。

４、終わりに

さて時代は明治・大正・昭和・平成と移り行き、今日では1,500兆円という膨大な富が生活する個人の手に蓄積されています。これを生活と地域と地球の持続可能な発展のために生かす道、それが今回の「個人投資家宣言」の目的だと思います。

明治初頭に由利公正が「五箇条の御誓文」原案で考えたことの本当のバージョンアップのひとつが、この宣言に込められているといえるのではないかと思います。

誌上ライブ 《東京インベストライフ・セミナー》第6回
―2006年12月8日　東京ウィメンズプラザ（表参道）にて―

仮説）投資は文化である

講師：岡本和久（司会）、村山甲三郎、菱川精記、速水禎、菅淑郎

第６回東京インベストライフ・セミナーは、村山甲三郎氏に、「仮説）投資は文化である」というテーマで、これからの投資のあり方についての考察をいただきました。10月号・11月号でもご執筆いただいたテーマをより深めての講演となりましたので、ご熟読ください。

なお、このセミナーの様子はI-Oウェルス・アドバイザーズ㈱ホームページのクラブ・インベストライフ会員専用コーナーで実況録音を流しております、ご参加いただけなかった会員の皆様は、ぜひ、ご利用ください（パスワードはit94mjnj）。

問題提起

「仮説）投資は文化である」

村山甲三郎

村山：今日は、「仮説）投資は文化である」という変わったタイトルでお話しいたします。

仕事柄、運用相談でいろいろな方にお目にかかるのですが、「投資はなかなかうまくいかない」という方が結構いらっしゃいます。例えば去年（05年）は日本株が非常に大きく上昇し、今年（06年）はガタガタになりました。その間に、投資の難しさを実感された方もいたことでしょう。ただ、歴史を振り返ると、このような株の大きな上昇とその後の下落ということは、別に珍しいことではありません。ITバブルとその崩壊、1989年に向けての大きな株式上昇とその後の下落など、同じようなことを繰り返しているわけです。

■市場のうねりのなかでどう考えるか？

それに対してどうしたらいいか？　大まかに言って考え方は二通りあると思います。

一つは「次はもっとうまくやろう。今までにない、よいやり方でやってみよう」という考え方です。例えばチャートを勉強しようとセミナーに通ったり、本を読んだり、あるいは儲かる商品はないかと、営業担当者に尋ねる方もいるかもしれません。「この次は、この次は」とトライしていく方法です。

しかしそれ以外の方法や考え方はないのか？　そこで思いついたのが、そもそも根本的に見方を変えたらどうだろうかということ。その一つとしての「投資は文化である（仮説）」です。

文化というのは概念の広い言葉で、中身によっていろいろな議論ができますが、今日は、私の独断で、文化と言えるための三つの条件を考えてみました。

第一は、「時の判定を経ていること」。人間の活動にはいろいろなものがありますけれども、そのなかで文化と言われているものは、時間の経過を経て生き残っているものという側面があると思います。世の中で一時的にもてはやされるものはいつでも存在しますけれども、いつの間にか時間がたつと忘れ去られてしまうものがたくさんあります。文化というためには時間を経て生き残る。それだけの価値があるもの、考え方でなければならないと思います。

第二に、「社会に受け入れられている」、あるいは「社会にとってなくてはならない存在である」という条件を挙げたいと思います。例えば、音楽のない世界を想像することはすごく難しい。静寂というのは時として素晴らしいものですが、世の中に音楽がなくなるなんて考えられない。

そして、そのように社会に受け入れられるためには、秩序、あるいはしっかりとした背骨のようなものが必要

ではないかと思います。己を律する姿勢みたいなものを感じられるというものであるからこそ、社会に評価されて受け入れられるとなるのではないかと思っております。

■取ろうと思えば取れるものをあえて取らない

三番目は、「目の前にあって、取ろうと思えば取れるものをあえて取らない」という考え方、「合理的な行動を必ずしも取らない」という考え方です。

例えば、囲碁や将棋の世界には、「後の先」という言葉があります。これは、対局で指す一手、あるいは打つ一石が、その手自体は一見相手にとって有利で、自分にとって不利にみえるような手のことです。しかし、その手が後になってみると生きてきて、有利な局面に転換する。これを「後の先」と表現します。一見合理的でない手を指しながら、長い目で見ると結局合理的になってくるのです。

こう考えたとき、果たして投資は文化といえるのでしょうか。ここで思い出すのは、株式のデイトレーダーの生活を紹介するテレビ番組です。トレーディングには私自身長くかかわってきたので、エキサイティングで面白い世界だと思っています。またデイトレーダーとして成功する人というのは、その面で非常に特殊な才能を持っていると思っています。

しかしその番組で、デイトレーダーの方の生活を垣間見たときに感じたのは、ある種の乾きです。直感的にこれは文化ではないと思いました。さきほどの三つの条件にもあてはまらないと思われます。

今、取り上げたのはたまたまデイトレーディングでしたが、さまざまな投資行動や投資にまつわるすべてのことを、果たして文化と言えるかどうか検証してみるのもおもしろいかもしれません。例えば銀行や証券会社が受け取る販売手数料は文化といえるか、などと考えてみることもできるでしょう。

■文化と呼べる投資とは？

投資が文化でなければならないかといえば、必ずしも文化である必要はありません。しかし文化と呼べるような投資を考えてみるのもいいのではないでしょうか？

まず、時の判定を経ている投資。編集委員の平山さんが以前書かれたように、一般の人にとって、投資とか運用の歴史はとても浅いもの、この数十年ぐらいしかありません。したがって本当に時の判定を経てきた投資や投資のやり方というのは確立されてないと思ったほうがいいでしょう。ただ世界でいちばん先に豊かになったヨーロッパの国々には、それなりに時の判定を経た投資の考え方があるのではないか。澤上さんが経験されてきたような、ヨーロッパの富裕層の投資手法です。

世界の多くの国々が、以前に比べて豊かになってきています。そういう意味で、これから将来に向けて時の判定が下され、どのような投資が生き残っていくのか、試されてくるときだといえるでしょう。

次に、社会に受け入れられて、どうしても必要だと思われる投資という条件はどうでしょうか。いま地球はどんどん小さくなっています。世界はいろいろな意味で相互依存を高めています。そんななかで自分の資産さえ増えれば、あとはどうなってもよいという考え方とは別に、社会にとってよりよい運用、社会をよくする運用というのも考えられると思います。果たしてそれがどういう運用なのか。これも先ほど申し上げたように、これから現れる運用の考え方や姿勢に、それを探していくことになるでしょう。

一見合理的でないようでいて、究極的には合理的という条件を満たす投資とは何でしょう。思い出すのは、澤上さんがセミナーでよくおっしゃる名言「損するつもりでやってごらんよ、なかなか意外に損するのは難しい」です。まさにこれが先ほど申し上げた条件の一つの好例です。また、岡本さんがおっしゃる非マネーリターンというのも、お金の絶対額で大きく儲ける投資だけでなく、お金以外のリターンを手に入れる投資もあるのではないかというのも同様です。

さて、「投資は文化である」と仮定をすることによって、儲けたか、損したかという結果だけで、熱くなったり寒くなったりという考え方から少し離れ、まったく別の考え方に触れることができるのではないかと考えて、この仮説を考えてみました。

Q 投資は文化であるということに関して、編集委員のご意見をお聞かせください。

菱川：投資哲学、インベストメントカルチャーについてですが、日本と欧米の運用哲学にはかなりギャップがあります。日本の場合、運用技術はあっても、運用哲学はないという印象です。

運用には三つのストラテジー、技術があります。成

菱川精記

長株を中心に運用するグロースストラテジーと、バリューを中心に買う割安戦略、もう一つはインデックス運用で、日経225やTOPIXに連動する運用法です。

日本の場合、ファンド・マネジャーに聞くと、昔グロースをやっていて、その後バリューになって、今はインデックスをやっているというケースもあり得ます。

一方、欧米では、グロースはグロースで一生グロースをやって、それ以外はやりません。要はその技術がいちばんいいと思ってやっているわけです。これは、裏に、カルチャーというか、哲学、あるいは宗教みたいなものがあるのです。例えばバリューなら、割安なものを買うのが究極的にいいと信じて疑わない。そういうものに根ざしていますから、たとえ目先が儲からなくてもじっと耐えて長年やるんです。インデックス運用はベンチマークに乖離(かい)せずに運用するということで、一見、哲学的な感じから離れている気がしますが、これもまた「マーケットは効率的である。だからグロースやバリューでは絶対に長期にわたって勝つことはできない」という一つの哲学なのです。ですから哲学をころころ変えることは、彼らにはあり得ないのです。

私は、自分で一貫性のある運用をやる場合に、技術論ではなく、運用を支える長年にわたるカルチャーとか、哲学的なものも合わせて勉強されていくのがいいのではないかと思っています。

速水：オイルショックがあり、バブルがあり、不況がありましたけれども、20年、30年、そういう「時の審判」を経てもいまだに成長を続けている会社というのは、やはり何か一貫して変わらないものが、必ずあるように感じています。もちろん会社ですから利益を求めないということはないのですが、第一にお客さんを喜ばせようとか、世の中がびっくりするような技術革新をしようとか、そういうすごい情熱を持っているというところが、原点になっているように思います。

３つ目の条件に関しても、たしかに一見非合理な行動を取るけれど究極的には合理的な結果を得る会社というのはありますね。たとえば、不況でものが全然売れないようなときに、巨額な設備投資をするのです。あとになれば、競争相手がようやく設備投資を手がけるころに、どんどん新しい製品を売ることができる。

地域に寄付をしたり社会貢献をしたりという行動も一見非合理的ですが、いざというときに周りのみんなが味方についてくれたりするのです。

私の非常に好きな電子部品メーカーは、すでに約40年前にアジアに進出して工場を建てているのですが、いまだに人手で製品を作るようにしているそうです。それは、雇用を作り、賃金を上げ、経済レベルをアップすれば、10年先か20年先、その地域で電気製品が売れるようになり、その製品に自分たちの電子部品が入ることになるだろうといった、非常にスケールの大きな考え方をされているのです。

個人的な価値観からすると、いま申し上げたような会社が非常に肌に合います。また、こういう会社こそ、長い時間をかけて一緒に成長していけるし、自分のお金を任せられる企業ではないかと思っています。

岡本：株価の『月足30年（チャートブック）』を見てみると、20銘柄か30銘柄、バブル崩壊後の暴落がなかったかのように、一貫して右上がりのチャートを描いている会社があります。下落場面もあるのですが、対数チャートなので、伸び率が一定であれば一直線に上がっている形になるわけです。

ある会社は30年前の1976年と現在の株価を比べると、35倍。当時500万円を投下していれば、いま１億7,500万円になる計算です。もちろん、その間には一時的とはいえ、半値に下がるような大暴落が数回ありました。このまま半値になってしまうかもというような下げに遭っても、いい会社だという信念を持ち続けて、何度も耐えることができた人だけが、１億7,500万円を手にすることができたということです。

長期投資の魅力がいかに大きいかわかると同時に、ものすごくガッツが要ることも、おわかりいただけるでしょう。果実を得るには、信念に裏づけられた投資をしていないとなかなか実現できないということです。

Q 皆さんが、投資に哲学とか志を持つにいたったきっかけや影響を受けた人・物・出来事かあれば教えてください。

村山：当時は仕事上も株式投資を一切やったことがな

かったのですが、あるときふと株を買ってみようと思い立ちました。何を買っていいかもわからない、投資哲学も志もまったくない状態で、社内の友だちに言われるままにある銘柄を買って、すぐ損をしました。これが最初の投資でした。恥ずかしい話ですけれど、証券会社に席をおきながら、自分は運用に関してどうしていいかまったくわかっていないということに初めて気がつきました。最初に浮ついた投資をして、失敗したというのが、一種の反面教師になりました。

また、難しく考えていると、投資というのはものすごく難しいことにも気がつきました。

つまり、自分が何も知らないということを理解し、次に、投資で儲けるというのはものすごく難しいことだというのを理解したわけです。それで、どういうふうにしていったらいいかと考え続けて、別に完成したわけではないのですが、今は全然違う考え方のほうに進みつつあるというのが、私の場合です。

速水：市場とか経済とか株式とか、十数年やってみて、こちらの都合は全然聞いてくれない、僕らの都合を聞いてくれるほど甘いものではないというのがよくわかりました。ならば自分の都合など一切捨ててしまえばいいではないか、受け入れようという気持ちになって、意外といくつか成功したのです。

この体験と、例えば編集委員の方々のお話を重ね合わせて、自分を捨てて自由な境地に至る、周りの利益を優先したほうが実はリターンは舞い戻ってくる……そういったところに市場経済の真理みたいなものがあるのではないかと、最近思うようになりました。

また、哲学を持とうとか、志を持とうとか、あまり何かを背負い込む気持ちすらやめてしまって、ありのままを受け入れる。そういうことをしていくうちに、一段高いところに行けるのではないかと考えています。

速水禎

菅：私の場合は、１年後輩から『ファンド・マネジャー』、英名で言うと『The Money Masters』という本をもらったことがきっかけになりました。これは坐古さんという方が翻訳をされた本で、ウォーレン・バフェットさんやテンプルトンさんなど10人ぐらいの達人の運用について書いてある本です。

ところが、社会に出て２年目の自分にとっては難しい言葉が多くてよくわからない。何とかわかりたいと、証券アナリストや米国の証券アナリストの勉強をしたり、財務分析を徹底的にやってみたり、情報収集してみたり、いろいろなことにチャレンジしてきました。

今は、生活者として生きていくなかで、自然体で構えていると自分がアンテナみたいな格好になって、自分なりの情報だったり、自分で感じ取れたものが、入ってくるときは入ってくる、入ってこないときは全然入ってこないという感じになりました。また、いつのまにか中途半端なタイミングで売り買いをしない自分に変わりました。哲学なのかはよくわからないですが、澤上さんが、「投資は人生そのものだ。その人がどういう人生を生きようとしているのか、どういうふうになろうとしているかというものが、そのまま素で出てくる」とおっしゃったのに感銘を受けています。

『インベストライフ』を読んでいるうちにそうなってきたのかもわかりませんが、肩の力が抜けて、バリューだとか、どこに情報が……と言っていた自分からはずっと遠くになったという感じです。

Q 長期的に成長するものでも一時的には落ち込むことがある。そのときをいかに過ごすかというのは非常に大事な点だと思います。テクニカルな面でも、心理的な面でも、そのようなときの過ごし方をご経験から教えてください。

岡本：一つ言えることは、株価を見ないで会社を見るということです。株価が半値になれば少し胃が痛くなるかもしれませんが、その間も会社はちゃんと育っていること、自分が経営者に託したお金がきちんと成長してくれていることを見ていれば、株価そのものにおびえることはないだろうと思います。

ウォーレン・バフェットは、取引所が明日から５年間閉まってトレードできなくなっても、心配しないでいいような株を買うべきだと言っています。５年位は株価を見ないでも安心していられる会社を買えというわけです。逆に言えば、自分がよくわかる会社にしか投資をしないということであり、そこが根本かと思います。

菱川：いま私のところでやっている手法は、プライベー

ト・エクイティといいますか、会社の実態価値をはじいて、それより安い株を長期で持つという手法です。実態価値より安ければ買って、あとはあまり時価の動きに右往左往しない。売ろうというときに、いくらになるか計算してみるといった感じです。

一つの運用の考え方の参考として、企業の株価を買うのではなく、企業の実態価値を買うという発想、あまり目先の時価は見ないで実態価値が上がるまでじっくり持つという発想は持っておいていいと思います。

Q 投資スタイルによって、お金の使い方が変わってくると思われますか？　例えば、日本人の寄付についての考え方とか、ものの使い方──大切に使い込んでいくといった考え方──に影響はあるでしょうか？

菅：寄付するのは投資するのより勇気が要ります。返ってきませんから（笑）。私は「国境のない医師団」とか、近所の教会などを通じて寄付をしているのですが、寄付先によってはこちらの想い通りに使われていくのか気になります。本当はもっともっと稼いで、自分でコントロールできるほど寄付ができるといいのですが（笑）。

さて、長期投資をする人が増えてくると、将来寄付をする人が増えるかどうかという点については、ちょっとよくわからないです。お金がなくても、優しい気持ちで寄付する方はいるでしょうし。

ただ、投資を通じて世の中を良くしていこうという気持ちを持つ人が増えれば、結果的にお金の使い方も変わってくるのではないか、そう期待したいです。

村山：私は変わると思います。というのも、基本的には社会は変わる、変わっていくという考え方なので。

例えば寄付ですが、私がアメリカの会社に勤めていたころ、クリスマスになると建物のなかにドーンと大きなクリスマスツリーが置かれます。そこに社員がおもちゃなどプレゼントを持ち寄って、地元の養護施設の子供たちにプレゼントするんです。別に高いものを持ってくるわけでもないし、特別なことというわけでもない。生活の当たり前のこととして寄付をしている。日本もこうなる可能性はあります。

菅淑郎

自分のお金が増えていくというのが実感できるようになれば、それを使って何かしたいと思う人が増えてくると思いますし、そうしたら自然にそういうことが起こってくるのではないかと思います。要は、世の中の前提が変わってしまえば、そのなかに暮らしている人たちの行動も変わってくると思っています。

岡本：日本フィナンソロピー協会理事長の高橋陽子さんから伺った、街角のフィナンソロピストという人たちの活動をご紹介します。

死ぬか生きるかという経験を繰り返しながら、交番勤めを引退された方ですが、生活費をほとんど使わず、1億円もの寄付をされた方がいます。普通のおまわりさんですが、お金はいくらでもあるから、いくらでも寄付するとおっしゃっているそうです。

ある方は、戦後60年毎月、給料の３分の１で生活して、３分の２を寄付し続けている方がいるそうです。

また、名古屋のある飲み屋さんでは、飲み仲間でネパールへ行くことになり、どうせ行くのならおみやげを持って行こうと、文房具を段ボール三箱分とその飲み屋のママがお釣り銭を貯めていた貯金箱６万円を持って現地に行ったそうです。

そうしたら全校生徒が本当に喜んでくれて、自分たちが感激してしまった。以来そのお店ではビール３本目は飲んだつもりになって寄付をする。だから次は４杯目になるわけです（笑）。それを毎年ネパールに送って、すごく豊かな気持ちを味わっているそうです。

われわれは金融資産の話をしているし、お金の話もしているし、インベストメントだから投資について考えるわけですが、ただそこで終わらない何かを持っていたいと思います。

Q 証券会社選びについて教えてください。

岡本：私は基本的にはコストの安いネット証券でいいかと思います。ただ同時に『インベストライフ』をよく読んで、自分なりの眼力をつけていただくということではないかと思います。というのは、証券会社は取引をしてもらうことによって、収益が上がるわけで、自分がないままに、つられて売買をしていると、いつまでたっても

儲かりません。ネットブローカーはそこを極限まで小さくしているので、自分で新聞を見たり、ニュースを聞いたり、自分の感性で銘柄を選んで、投資をすればいいのではないかと思います。

速水：私は証券会社は別にどこでも構わないと思います。ただ、買うか売るか、銘柄選びはほかの人に頼らずにご自身で決めるということ、買ったあとは執着しないこと、この二つが非常に大事ですので、これが守れるような証券会社とお付き合いすることです。

例えば、あれ買いましょう、これ買いましょう、これは儲かりますという雑音が多い証券会社とお付き合いをすると、ご自身の投資というものができなくなって、だんだんブレて歪んでしまいます。

前の二つがきちんと守れる証券会社であれば、別にどこでも構わないと思います。

Q 労働者の使い方、偽装請負、建設業者の談合問題など、考えると応援したい会社というものが正直いってなかなか出てこないのですが、どうお考えですか？

速水：本当に理想的な会社があるのかというのは、私もずっと悩んできたことです。あるとき気づいたのは、会社の基準というか、会社に物差しを当てはめると、100パーセント悪い会社もないですが、100パーセントいい会社も世の中にはないわけです。世の中に本当に信用して買える会社というのは、私も今までかなりの会社を見ましたけれども、ほとんどありません。それを求めてしまうと、無菌状態の、完全培養室みたいなところで企業が成長できるかということになり、それはできないと思うのです。

だから、基準は自分自身のほうに求めなくてはいけない。株式投資とか長期投資に向かう自分自身の姿勢というか、そういう方向にむしろ焦点を当てて行かないといけない、というのが結論です。

例えば問題のある会社の株主になって、株主総会で追究するということも立派な投資の仕方でしょうし、持っていた株を売却するというのも、その方自身の基準かもしれませんし、いろいろなやり方というのが実はあるのではないかと思います。世の中のことをいろいろ受け入れながら、自分がどういう行動を取っていくかというなかで、長期投資家としての品格というものを求めていくべきなのではないかというのが、最近私は感じていることです。

Q 投資クラブについてですが、自分で株式投資をやっていると、不安になったり独りよがりになりやすいと思っているので、何人かで議論をしながらやっていければと思っています。そういった場合の注意点やヒントをお伺いできればと思います。

速水：私は、集団で合理的に銘柄を決めていくというやり方に基本的に反対の立場です。投資というのは自分への問いかけで、葛藤や迷いのなかで最終的に決断を下すというプロセスです。だから苦しい部分が多々あるわけですが、そこは、他人と話したところで気が紛れる話ではなくて、意見が一致したら少し危ないと思うぐらいのほうがいいのではないかと思っています。

いちばん大事なのは最後に自分で決断することです。

岡本：投資クラブというのは、一般的には、10～20人ぐらい人が集まって、毎月１万円ほどを持ち寄り、みんなで銘柄を選んで買っていく。次の月に集まったときに儲かった、損したと、割と少ない金額で、投資の勉強をしつつ体験をしてみるというやり方です。

ポイントは学ぶということです。学びの部分を非常に重視して、そういう意思の強い人が集まっているということが大事です。

組織は民法上の法人で組合でして、比較的簡単につくることができます。NPOエイプロシスには規約のひな型まであります。ただ投資クラブを受けない証券会社があるので、証券会社選びが少し大変かもしれないです。それから、退会の場合など、事前の取り決めをきちんとしておく必要があるかと思います。

『インベストライフ』の１月号で新型の投資クラブをご紹介しているのですが、20人ほどで5,000～6,000千万円ほどの資金を集め、10年間解散しない、儲かれば利益の一定額を母校に寄付をするという投資クラブができました。これは非常に面白いスキームだと思っています。投資の勉強、実践、寄付—この三つを一つのなかに組み込んでいるのです。もしかしたら投資クラブというのは、使いようによってすごく面白いことができるのかもしれないと感じています。

庶民派の投信が続々と産声をあげる

三者三様の投信ブーム

世は投信ブームということで、次から次へと新しい投信が設定されている。毎月あるいは一定期間ごとに収益分配する投信が人気を集めたと思えば、今度は株式や債券それにREIT（不動産投信）などを組み合わせたバランス型の販売が好調という。

まあ、個人の投信購入意欲がどんどん高まっているからこその投信ブームなんだろうが、どこかちょっとズレている。

なにがズレているかといえば、投信ブームとやらのお神輿（みこし）をワッショイワッショイとかついでいるのが、金融機関や郵便局そしてマスコミだという点。預貯金から投信購入へと個人マネーがすごい勢いで流れ込んできているのは、実際に統計数字が示している。それらの大半が、銀行や証券それに郵便局が力を入れている投信ファンド購入に向かっているのも現実。

ということは、金融機関のビジネス拡大を促進させるべく投信ブームを煽（あお）っているのだろうか？ たしかに、100万円の投信販売で３万円前後の販売手数料が転がり込んでくるのだ。それにプラスして、各ファンドの信託報酬の半分近くが証券代行手数料として入ってくる。こんなに割の良い商売は滅多にない。証券はもちろん銀行も郵便局も、投信販売に力を入れるのは当然だろう。

マスコミが投信ブームを書き立てるのは、金融機関が大スポンサーで、広告料収入の増加が期待できるからか？　それもあるだろうが、現実の社会現象を世に知らしめるという報道者心理に駆り立てられて、次々と特集を組んでいる面もある。

では、受益者である個人投資家の便宜そっちのけの投信ブームなのだろうか？　必ずしもそうとはいえない。現実に、毎月分配型の投信を購入しては、月々の配当金が口座に入金されるのを楽しみにしている人も多い。投資収益を分配金という形で確認できることが安心感につながるという。

長期運用による財産作りタイプは、2007年から本格普及に入る

われわれ長期投資家にとっては、一時のブームなど「フーン、そう」ぐらいの関心でしかない。こちらは、10年、20年はおろか30年、40年ずっと財産作りを続けていきたいと考えているのだ。金融

澤上　篤人【編集委員】

ファンドマネジャー
さわかみ投信株式会社
代表取締役

機関やマスコミとは目的も時間軸も違う。もちろん、手数料稼ぎの道具扱いされる気もない。

やはり、信頼し安心して長期のお付き合いができるような投信に出会いたい。できるだけ低コストで、少しずつでも構わないから安定度高く、成績が積み上がっていってくれるような、長期保有型の投信が欲しい。

そんなムシの良すぎる願いを聞いていたら商売にならないと言ってはばからない人たちが多いのも事実。「こちらは企業経営全般でコストがかかっており、それなりに儲けさせてもらわないと、飯の食い上げとなってしまう」――投信を販売のビジネスと位置づけている金融機関は、そう言って引き下がらないだろう。

たしかに、投信ビジネスに進出している証券・銀行・郵便局は、どこも商売の一つとして投信を並べている。だれか顧客、つまり投資家から稼がせてもらわなかったら、商売のしようがない。両者は、いつまでたっても平行線をたどるだけであろう。

となれば、われわれ長期投資家の味方となってくれるような投信を、みなで強く求めるだけのことだ。世のどんなビジネスも、社会ニーズが高まってきてはじめて、それに応えようとするところが次々と出現し、それでもって大きく発展する。

2007年が、そういった本格派の長期保有型投信が雨後の筍のように、１社そして１社と産声をあげてくる最初の年になるのだろう。長いこと「販売サイドの論理」に牛耳られてきた日本の投信ビジネスに、「受益者の論理」を追求しようという軍団が、全国各地でいよいよ旗揚げするのだ。

一般家庭の財産作りを、長期運用でお手伝いさせていただくのだという志を持った人々が、全国各地でそれぞれ投信ビジネスを立ち上げる。志さえあれば、運用の経験など不要。世界の本物ファンドを複数組み込んだファンド･オブ･ファンズにしてしまえば、それらの成績を合成したものを投資家顧客に届けられる。

これが「おらが町の投信」である。もともと運用哲学も成績もぴかぴかのファンドばかりを組み入れるわけだから、「おらが町のファンド」の顧客も安心して長期の財産作りに取り組める。人生の大事なパートナーになっていく。

ちょうど、先輩格の「ありがとうファンド」が格好のモデルとなってくれているように。

新連載 金融の歴史と長期投資(1)

長期投資にとって大切な金融の歴史

平山　賢一【編集委員】
アセット・アロケーター

経済の潮流に目を凝らす

私たちが、小学校から高校、大学にかけて学ぶ歴史の大部分は、戦争の歴史にほかなりません。戦争の名前や政治家の名前を暗記することはあっても、たとえば金利の水準を知る機会はなかったはずです。大学で経済を専攻した人であっても、経済学史といわれる経済学の歴史を学ぶ機会は多いのですが、経済の歴史そのものを学ぶ機会が少ないのが現状です。

ただ、長期投資を考える私たちは、大きな経済の流れがどうなっているのかを、しっかりと見ていく必要があり、現在が経済の歴史から見てどのような位置にあるのかを、常に考える必要があります。確かに、企業の細かい決算の数値を追う必要はないかもしれませんが、経済の潮流に目を凝らす努力を怠ってはいけません。難しい議論をする必要はまったくないのですが、大きな流れを自分で見ていく力を養成する必要はあるのです。

それに、たいがいの金融マンは、日々の金利や株価の変化に気をとられ、経済や金融の歴史を紐解(ひも)くなど悠長なことをいってはいられないため、大きな歴史からの流れを読んで長期投資するなど、土台できっこありません。だからこそ、長期投資を標榜(ひょうぼう)する私たち一人ひとりが、大きな流れを把握することに専念するようにしていきたいのです。

今をどう見るか？

とくに、私たちが立たされている21世紀初頭は、過去10年から20年の動きを見ていただけでは想定しようのない、思いもかけない変化が発生している局面にあります。長期投資にとっては、本領発揮の、腕の見せ所です。より一層金融や経済の歴史を学び、その教訓を生かしつつイマジネーションを働かすことで、大局的に状況を把握する必要があるわけです。

歴史は繰り返さないかもしれませんが、歴史的事実に対する人間の反応は、時間を通り越して、かなり似通ったものになることが多いようです。たとえば、同じ経緯を辿(たど)るバブルは発生しないのですが、おかしいことにバブルを発生させる人間の行動パターンはどの時代も同じなのです。

歴史のうねりを把握する

それでは、そもそも金融の歴史とは、どのような種類のものになるのでしょうか。私は、金融の歴史は、主にカネとモノの関係の歴史（物価の歴史）、カネ同士の比較の歴史（為替の歴史）、そしてカネと証券の歴史（株式・債券の歴史）の三つに区分できると思っています。これらの共通点は、時代の歩みとともに流転し続け、方程式の答えのような解答に、まっすぐに近づいていくという性格のものではないという点です。どういうことかというと、大きく蛇行するような大河のような歩みやうねりを、ゆったりと続けているというイメージです。この連載では、皆さんとともに、この歩みの到着地点がどこになるのかを予測するのではなく、この蛇行のパターンをイメージできるようになっていきたいと思います。それが、金融史を学ぶことの最大の理由だと考えるからです。

それでは、さっそく来月から、金融の歴史の旅を始めていきましょう！

私の長期投資哲学

収穫のチャンスを待つ投資

河野（かわの）　信一郎
【サロンおおいた幹事】
大分県

■長期投資との出会い

私が投資というか株式に興味を持ったのは中学生の時。そのころ、テレビゲームが好きで、特にある会社のゲームが大好きでした。そしてある日、この会社の株式を持ちたいなと考えたのが始まりでした。しかし、その会社の株式は、最低の単元で100万円を超えていましたので、とても中学生に手の出るものではありませんでした。

◇

それから、年数がたって、大学生の時、再び投資と出会いました。それは、自分の将来を考え、預貯金だけではだめだな、何とかしないといけないなと考え始めたからです。

そして、大学院生の時の２年間は、いろいろな投資に関する本を読みあさりました。大学での専門は農学なので、全くの独学で投資について勉強しました。株式入門書から、チャート分析の本、デイトレードの本まで……。そして、最後に行き着いた先が「長期投資」でした。

ある著者の本にサラリーマンのための財産づくりをしている投信があるという記事を見つけ、さっそく資料を請求しました。

その資料の内容は、まさに私の求めるものでした。長期にわたって財産形成をゆっくりじっくり行い、将来的にはファイナンシャル・インデペンデンスの可能性も。そしてなにより、お金についての美しさがありました。長期投資って美しいと思いました。

私が就職してまずしたことは、証券会社に口座を開くことと、その投信に口座を持つことでした。私の長い長期投資の旅はこうして始まりました。社会人歴と投資家歴が同じになってしまいました。でも、すぐに長期投資家になったというわけではありません。

■長期投資のリズムを身に付ける

株式に関しての私の投資方法は、バイアンドホールドです。安値で買って、あとはじっくり待つ。ただそれだけです。でも最初はなかなか心が落ち着きませんでした。株価が気になってしょうがない時もありました。

しかし、だんだん長期投資のリズムが身についてくると株価の変化に動じなくなりました。「株式を買うということは、会社を買うということ」その意味がわかってきた感じです。

投信に関して、私が思うところは「基準価格を買うのではなく、哲学を買うこと」だと思います。その投信（ファンド）の哲学が気に入れば、基準価格に関係なく買うことはできると思います。そして投資したものを増やしてくれればいいのですから、いつ買えばいいといったものもないと思います。私は毎月自動引き落としのみで買ってます。

■農業に通じる長期投資

さて、今の私の仕事は、農業関係です。農業を見ていると長期投資に関係が深いなと感じます。例えば、米作りに関していえば、20歳から始めて60歳に引退するとしたら収穫のチャンスは40回しかありません。生産者はその１回１回を大事にして、最高のものを作ろうとします。時には台風で収穫できなかったり、大豊作の時があったりします。そんななかで自分の技術の粋を結集して引退までに最高のものづくりをしていきます。自然という「味方でもあり、敵であるもの」といつも一緒にいます。そして「適当」です。

長期投資は、人生という長い運用時間のなかで、最高の結果を残そうと努力します。そして、景気という味方にもなり時には敵にもなるものに左右されながら、ほんの何度かの収穫を楽しみます。種を蒔（ま）く時期にしっかりと蒔いて、収穫期にちゃんと収穫します。こちらも適当さが必要です。

■心の安らぎのある投資

そんな長期投資のリズムに慣れると楽ですね。私は、心の安らぎが生まれると思っています。そしてそんなに楽で、心の安らぎが生まれるものだったら、多くの人に触れてもらいたいと考え、サロン・インベストライフおおいた（http://blog.goo.ne.jp/investoita/）を発足するに至りました。

そして、将来的には地域ファンドを立ち上げることができればなと夢を描いています。地域の人が安心してお金の運用を任せることができ、そして、次のステップとして地域のお金が地域で回るようになればと思います。行政に頼らず、自分たちのお金（力）で地域を作っていかれれば最高ではないでしょうか。自分たちの街は、自分たちで作る。それが長期投資を通して可能だと思います。これからもこのような夢を追いかけながら動いていきます。

■仕事が一番

若いうちはそれほど金融資産がないかもしれませんが、自分という無限の可能性を秘めた人的資産を持っています。その人的資産の収益率を向上して将来の収入に結びつけるのが自己啓発投資です。例えば、専門的な資格を取るとか、より高度な教育を受けるなどが考えられます。この場合、自分で授業料などのおカネを出して、自分のアタマ（知力）とエネルギーと時間を使って自分の収益率を高めます。

一方、金融資産への投資は、自分のおカネを人に使ってもらい、投資先企業の人々のアタマとエネルギーと時間が生み出す収益の一部を、投資リターンとしてもらっているわけです。金融資産への投資は、将来の自分をいまの自分がサポートしているのだといえます。長期投資で将来の経済基盤を整え、そして社会に貢献できるような資産を形成するのです。これも欠かせない投資です。

◇

毎月の収入のうち、一番、大きな項目は普通、生活費でしょう。また、将来に備えて金融資産への投資もしなければならないし、自分自身への投資も必要です。そうすると、そんなにたくさんの投資に回すだけの収入がないという問題が生じることだろうと思います。

しかし、よく考えてみるとここにとても「うまい話」があります。自分では一銭もおカネを出さず、しかも収入が増えるのです。そんなうまい話が……と思うかもしれませんが本当です。

それはいまの仕事を一生懸命するということです。人生とは、若いときに持っている「可能性」という含み資産を「おカネ」、さらには「幸福感」に変換していくプロセスだと考えてもよいのです。その原動力になるのが「仕事」です。仕事が好きな人と仕事が嫌いな人では、毎日の満足感が天と地ほど変わります。

どんな仕事でも良く見れば面白いところがあります。それを一生懸命に極めていくと、その興味のある分野が点から大きな広がりへと拡大していきます。好きな部分が増えていきます。

そうなればしめたもの。社内ではホープとして一目置かれ、業界でもプロとして名声を馳(は)せることができます。社内での評価も高まれば、ボーナスや月給が増えるかもしれませんし、業界での知名度が高まれば、一流プロにふさわしい仕事のポジションが与えられるかもしれません。

◇

収入が増えればそれを使って自己啓発投資もしやすくなり、それによって自分の価値がさらに増えることでしょう。また、金融資産への投資をする余裕もできて経済的な自立が達成しやすくなります。将来のための投資は、すべては「いまの仕事を一生懸命にする」ことから好循環がスタートするのです。

■シンプルな生活が資産形成の基礎

毎月の給料のうち、自己啓発投資と金融資産への投資が大切であることはよくご存知でしょう。自己啓発は自分の価値を高め将来のキャッシュフローを高めてくれます。そして金融資産への投資は経済的自立を実現し、社会に貢献するために必要です。限りある給料をどのように配分するかというのは頭の痛い問題でもあります。

◇

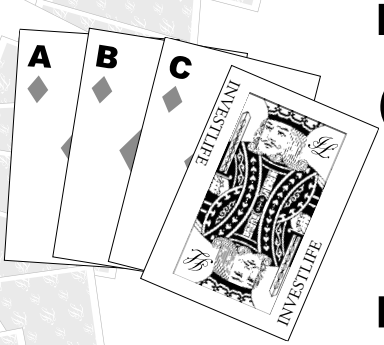
「仕事が一番」ですから、しっかり現在の仕事を極め、その道のプロになることが大切であることはすでに述べました。実は、もうひとつ重要なことがあります。

毎月の給料の使い道を考えると何といっても一番、大きいのが生活費です。その生活費がムダだらけだと、自己啓発や金融資産に回すおカネも限られてしまいます。何といっても生活はシンプルで健全なのが一番です。本当に必要なものを必要なだけ使って生活をするのです。「あれも、これも」と欲望に駆られておカネを使っているとキリがありません。結局は華美な、バブリーな生活になってしまい、本当に大切なことにおカネが回らなくなってしまいます。大切なことは「足るを知る—知足」という考え方です。おカネを使わなくても十分に幸福感を味わえることを若いうちから身につけておくことはとても大切なことです。

◇

霜降りのステーキも美味しいけれど、新鮮な野菜だって負けずに美味しい。豪華なクルージングで世界一周するのもいいけど、ハイキングに出かけ、花の咲き乱れる野原で寝転がって、流れる雲を眺めているのもすてきだ。ブランド物のバッグを買うのも結構だが、フォスターペアレントになって

資産運用「きほん」の「き」



■仕事が一番
■シンプルな生活が資産形成の基礎

世界の貧しい子どもたちに援助の手を差し伸べる満足感もあるのです。

ゆたかさ、幸福感、満足感と、使うお金の額とはあまり関係がないのです。要は自分が何に幸福感を得るかということです。そこに人、それぞれの品性が発露するのだと思います。

◇

シンプルな生活のための、私の考える四カ条をご紹介しましょう。

①**値段で買い物をしない**　—「安いから買う」ことをやめる
②**自分の価値観で買う**　—「みんなが買っているから買う」ことをやめる
③**世の中のためになる良い企業の製品を買う**　—これが最強の「応援」です
④**できるだけ借金で買い物をしない**　—必要なものは貯めたお金で買う

みじめな生活をしろと言っているのではありません。心の豊かさに満ちた生活をすべきだと言っているのです。そして、心豊かな生活は必ずしも使っている金銭の額とは関係がないということです。

◇

1688年に発刊された『日本永代蔵』のなかで、井原西鶴は長者になるために服用する薬、「長者丸」という薬の作り方を述べています。これを毎日、服用すれば間違いなく長者になれるそうです。その成分は以下の通りです。

- **朝起**（朝早く起きること）—10%
- **家職**（家に代々伝わる職業、要するに仕事）—40%
- **夜詰**（夜間も仕事をすること）—16%
- **始末**（浪費せず、慎ましいこと）—20%
- **達者**（物事に熟達していること）—14%

要するに仕事を日夜、一生懸命努め、その道に熟達する、そしてシンプルな生活をおくる、これが長者になる秘訣だと言っているわけです。いまも昔も真理は変わりませんね。

（この文章はI-Oウェルス・アドバイザーズのメルマガに掲載された「資産運用『キホン』の『キ』」を加筆修正したものです。メルマガ購読ご希望の方は住所、氏名、職業、電話、メールアドレスをご連絡ください。）

岡本　和久【編集委員】

CFA協会認定証券アナリスト
I-Oウェルス・アドバイザーズ㈱
代表取締役
日本CFA協会名誉会長

株主総会（下）

第20回

速水　禎【編集委員】
運用担当者

◇経験の浅い若いアナリストは…

ご存じの通り、戦後の日本は世界のなかで最も目覚しい経済発展を遂げた国のひとつです。この比類なき成功を、「エコノミック・アニマル」だとか、「カネの亡者」といった批判が、一部にはあったようにも聞きます。

しかし、成熟社会に入ったこの国では、企業の株式を買ったり売ったりという単なる経済行為を、これから長い時間をかけて、長期投資というひとつの文化にまで向上させていくに違いありません。そうした社会の成熟度を映し出す鏡として、私はこれからも株主総会に参加していこうと考えています。

◇

さて、今あなたは株主総会の会場の席に腰を下ろし、進行する議事について、静かに神経を集中して聞き入っています。初めにその一年の会社の経営成績についての説明があり、続いて会計監査の報告、次に配当金などの利益処分、取締役や監査役の選任、定款の変更など重要な議案についての説明が行われます。このときばかりは、日常の仕事や家庭で抱えている問題や心配事などは一切忘れて、全身の毛穴を全開させて聞き入っている状態であることが大切です。

以前の私もそうでしたが、まだ経験の浅いアナリストは、入ってくる情報をとかく頭で理解しようとします。しかし、このやり方は一見合理的に見えますが、実際の投資においては、必ずしも効率の良い方法だとは、私は思いません。

現場に向かう若手のアナリストに対して、私が必ず指導するのは、その会社の景色、色、音、温度、匂い、ときには味といった五感を使って、全身で受け止めた情報を、そのときの感情とともに鮮明に身体に覚えさせることです。

◇本当の株主総会

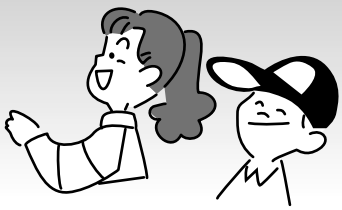
さて、総会はそろそろ質疑応答の時間になっていることでしょう。初めて参加される方のなかには、株主と経営者による丁々発止のやりとりを期待される人もいるかもしれません。しかし、そうした単なる見物人の好奇心は、ここでは抑えるべきでしょう。なぜならあなたはこの会社のオーナーであるからです。

質問に立ったある株主は、あなたの目の前でまるで検察官のように、経営陣を厳しく追及するかもしれません。またある株主は反対に、陪審員を前に雄弁に語るアメリカ映画の弁護士という役割を演じるのかもしれません。しかし最終的に議案の採決において、あなたは裁判官としての責任を果たしていることになります。

家に帰る道では、その日一日を投資家として実り多く有意義に過ごせたという満足感があなたを包むことと思います。そしてその晩、オーナーとしての自分の人生に誇りと喜びを抱きながら、穏やかな心で眠りにつくことができるでしょう。生きていくために投資をしていくが、カネ儲けのために生きていくのではないという思いは、実は明日からの毎日が、本当の株主総会であるということを、あなたにそっと教えてくれるはずです。

長期投資家のたまごたちへ

オーナーの優待



Every business is built on friendship.
J.C. Penny

自動車会社から蜂蜜、機械メーカーからワイン

自動車会社から、株主優待としてジャムと蜂蜜が送られてきた。「自動車会社からどうしてこんなプレゼントがあるの？」 Z子が突っ込んでくる。答えに窮した僕は、この会社の子会社と、送られてきた品の生産国に関係があるのを見つけるのが精一杯。

◇

株式投資をしていると、配当と別に株主優待を受け取ることがある。なんだか得した気分になって、一人前の株主としてのもてなしをうけた気がするものだ。

日本ではかなり前から、映画会社の招待券、鉄道切符、航空券割引などの優待券が出回っている。90年代に入ってからは、バブル崩壊後の機関投資家の株離れを背景に、個人株主獲得に力がそそがれ、自社製品や外食の食事券などを贈る会社が増えた。

これは自社の商品やサービスを知ってもらい、共感を高め長期保有者になってもらいたいという経営者の気持ちを反映したものだろう。そもそも利益の極大化を目指す経営者と、何でも安く購入したい一般消費者の利害は対立するところがあるが、そんな消費者も、株主となれば共存共栄的な関係になる。

しかし、冒頭の話のように、その会社の商品やサービスと直接関係ないものも見受けられる。以前、機械メーカーからイタリアワインをいただいた。単元株主一人当り１本ということなので、大株主も１本。大より小を優遇した形であった。まるで中元・歳暮のようだ。

株主への報いは、「利益成長」と「配当」が基本

こうした株主優待制度は、欧米では一般的ではない。米国のディズニー株をもっていてもディズニーランドが割引になるわけではないのだ。

優待は程度問題だが、普通は売上を押し下げるか、費用を食う格好となる。

一方、配当なら、堂々と税引き後の利益を蓄積した剰余金を財源にしており、株主総会の決議を経たものだ。近年持ち株比率を高めているが、こうした優待に直接預かれないどこかの外人大株主たちもこれなら納得だろう。

消費関連では、優れた経営で最大手になったチェーンストアは以前から現金配当だけだった。ずっと全国商品券を進呈していた地方スーパーも配当だけに切り替えるという。株主への報いの本筋は、「利益成長」と「配当」なのだ。

決算期が近づくとこうした株主優待のお手軽おトク情報が雑誌に取り上げられたりして話題になる。しかし、目先のおトク情報だけ追っかけて投資するのはやめよう。優待をいただいたなら、オーナーとして会社がどういう事業を行っているかよく知るために利用しよう。

僕たち長期投資家は、目先のお得情報に右往左往せず、急がずあせらず、ゆったりと会社の理念や志を見て銘柄選別を心がけたい。「この会社どんな会社かなあ～。何をやっているのかなあ～」という視点を忘れたら、ずっと付き合っていくことなどできないのだから。

菅　淑郎【編集委員】
CFA協会認定証券アナリスト
金融機関勤務

お知らせ《東京インベストライフ・セミナー》について

クラブ・インベストライフが定期的に開催するセミナーです（２ヵ月に１回開催）。会員の方は、お申し込みいただければ、無料で参加いただくことができます（一般2,000円）。お申し込みについては、本誌にてその都度お知らせいたします。

プログラムは、基調講演と質疑応答ですすめられます。会場からの質問にその場で編集委員がこたえながら、一緒に考えを深めていくというのが、クラブ・インベストライフのセミナーの特徴です。テーマについて、また、長期投資をしていてわからないことなどを、その場でご質問ください。

地方からご参加くださる会員の方もいらっしゃいます。ご用時の日程をお合わせのうえ、ぜひ一度ご参加ください（定員 200 人／先着順）。チケットとなるハガキをお送りいたします。

※日程・会場に変更がある場合は、本誌にてお知らせいたします。

スケジュール

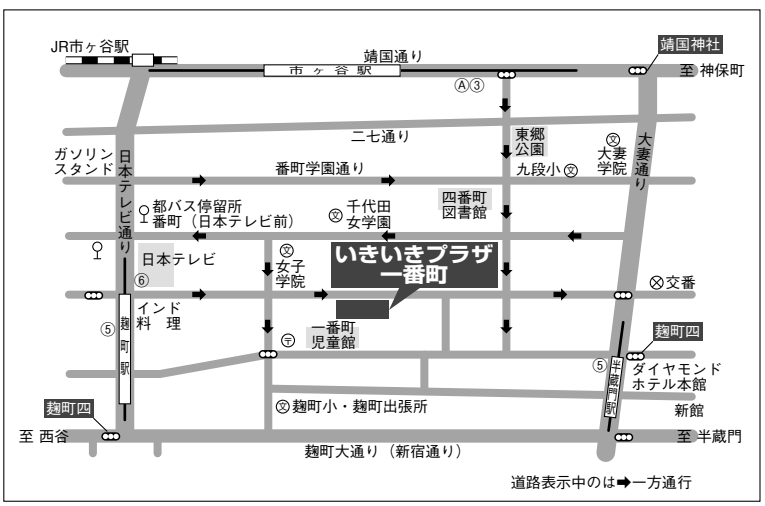
基本的には、偶数月の第一金曜日の夜に開催いたします。

▶４月６日㈮ 19：00〜21：00　▶６月１日㈮ 19：00〜21：00　▶８月３日㈮ 19：00〜21：00
▶10月５日㈮ 19：00〜21：00　▶11月30日㈮ 19：00〜21：00

※12月開催を早めて、11月末の金曜日に開催いたします。

4月6日㈮会場地図・アクセス

会　　場：**いきいきプラザ一番町　B1ホール**
アクセス：JR・東京メトロ有楽町線・南北線・都営新宿線 市ヶ谷駅から徒歩13分
東京メトロ有楽町線 麹町駅５番出口から徒歩５分
東京メトロ半蔵門線 半蔵門駅５番出口から徒歩５分
都バス（橋63）新橋駅⇔大久保駅 番町（日本テレビ前）下車徒歩５分



※なお、ご都合で会場に足を運べない方のために、会報誌『インベストライフ』の偶数号にそのセミナーの一部を《誌上ライブ》として掲載しています。
また、I-O ウェルス・アドバイザーズ㈱のホームページのクラブ・インベストライフの会員専用コーナーで、音声を公開しています。パスワードは、会報誌『インベストライフ』の《誌上ライブ》の誌面に掲載しています。

「全国各地で開催される」
インベストライフ・セミナー in サロンのご案内

サロン主催のセミナーが全国各地で開催されています。ぜひ、お知り合いをお誘いのうえ、ご参加ください。ご希望の方は、各サロン窓口（もしくは I-OWA）まで、①○月 × 日開催のセミナー（開催場所）」○○希望、②ご住所（郵便番号）、③ご氏名、④電話番号／ FAX⑤E-mail アドレスをお知らせください。

※各サロンともお電話でのお申し込みは受け付けておりませんので、ご了承ください。

《お詫び》1 月号の I-OWA 通信にて、3 月に名古屋でセミナー開催予定とお知らせしましたが、都合により、延期となりました。お詫びしてお知らせいたします。

沼津 インベストライフ・セミナー in 沼津 4月22日㈰ 14:00〜17:00

【主催】サロンのたまご サロンFUJIYAMA

●講　　師：澤上篤人氏・村山甲三郎氏・菱川精記氏・岡本和久氏（予定）
●会　　場：ぬまづ産業振興プラザ
〒410-0801 静岡県沼津市大手町1-1-3　沼津商連ビル5階
TEL▶055-964-1581／FAX▶055-964-1583
●アクセス：JR東海道線・御殿場線沼津駅より徒歩1分
JR東海道新幹線「三島駅」下車。JR東海道本線に乗り換え「沼津駅」下車
●地　　図：http://www.numazu-plaza.net/main/plaza/location.html
●参 加 費：1,000円（税込み）
●お申し込み：吉田聖一（サロンのたまご　サロンFUJIYAMA幹事）
E-mail▶info@yoshinoag.co.jp
郵　便▶〒410-0801 沼津市大手町2-5-12
セントラルビル
株式会社吉野エージェンシー
電　話▶055-963-2392
●お問い合わせ（メールを使われない方）：
I-O ウェルス・アドバイザーズ㈱冨田
電話▶03-5789-9821／FAX▶03-5789-9822

京都 インベストライフ・セミナー in 京都 5月27日㈰ 13:00〜17:00

【主催】サロン大阪

●テ ー マ：長期投資（分散投資と長期運用）の世界（岡本和久）
●講　　師：伊藤宏一氏・村山甲三郎氏・岡本和久氏（予定）
●会　　場：京都府中小企業会館　801会議室
〒615-0042　京都市右京区西院東中水町17番地
（西大路五条下る東側）
●アクセス：阪急・西院駅より（南に徒歩15分）
JR京都駅よりタクシーにて10分
●定　　員：140名
●地　　図：http://www.chusyo-kaikan.jp/access.htm
●参 加 費：1,000円（税込み）
●お申し込み：奥田博美（サロン大阪会員）
E-mail▶aaa@srm-net.co.jp
郵　便▶〒600-8362 京都市下京区高辻通堀川西入富永町672
F A X▶075-813-5082／電　話▶075-813-5066
●お問い合わせ：（メールを使われない方）　I-O ウェルス・アドバイザーズ㈱冨田
電話▶03-5789-9821／FAX▶03-5789-9822

クラブ・インベストライフの本屋さん開店!!

I-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社のホームページのクラブ・インベストライフのコーナーに、「クラブ・インベストライフの本屋さん」（amazon.co.jp）を設けました。編集委員の書籍について知りたい場合、ご活用ください。

http://astore.amazon.co.jp/cil-22（※なお、伊藤宏一氏の『ライフプランニング　理論と事例』はセールス手帖社保険 FPS 研究所にお問い合わせください。（03-3352-8302））

■更新と年会費の振込みについて

I-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社がクラブ・インベストライフの運営を開始してから、1 年がたちました。試行錯誤の運営のなか、ご入会、ご継続いただきまして、ありがとうございます。

なお、更新につきましては、更新月の 2 カ月号前より、会報誌『インベストライフ』に同封して、《更新のお知らせ》をお送りしております。《更新登録書》をお書き込みのうえ、郵送（ファックス）ください。I-O ウェルス・アドバイザーズ㈱のクラブ・インベストライフのコーナーの《クラブ・インベストライフ入会・更新申込書》http://www.i-owa.com/club/Moushikomiyoushi.htm からご登録いただくことも可能です。

なお、郵便局からのお振込みの希望が多数寄せられましたので、ご案内いたします（入金確認に 3 日ほどかかる場合がございます）。

お振り込み
【銀 行 口 座】三菱東京UFJ銀行　恵比寿支店（店番136）（普）1707772
口座名義）I-Oウェルス　アドバイザーズ㈱インベストライフ口（ぐち）
カナ名義）アイオーウエルス アドバイザーズ カブシキガイシャ インベストライフグチ
【郵便振込口座】00130-8-298707
口座名称）I-Oウェルス・アドバイザーズ㈱
カナ氏名）アイ－オーウェルス　アドバイザーズ（カ

BOOK

●おすすめの一冊　『長期投資を始めるなら50歳からが旬！』

澤上篤人著　実業之日本社　2006年11月22日

団塊の世代気質

団塊の世代が定年退職期を迎えるということで関連ビジネスが注目されている。と、いうよりも関連業界が「鵜の目、鷹の目」で退職金目当ての商品を開発して、「これでもか、これでもか」と必死の攻勢をかけている。しかし、団塊の世代はそんな、ヤワな世代ではないよ。人に無理強いされるほど、冷めていくのが団塊世代の特徴なのだ。

著者の澤上さんも私もちょうど60歳になったばかり。団塊の「露払い世代」だ。子ども心に力道山の活躍に血湧き肉を躍らせ、東京オリンピックのころを受験生として過ごし、社会に出てすぐ石油ショックが起こり、輸出をテコに経済が成長し、円高になって、バブルがあって、それから構造不況……。要するにいろんなことを体験していま、終身雇用という束縛から離れて「自由に羽ばたこう」というのが団塊世代なのだ。その人たちに「ああしろ、こうしろ」と言っても「うるさい奴だ」と思われるのが関の山だろう。おじさんとしては「ほっといてくれ！」と言いたい。

この本は、その団塊世代をひとつ飛び越えて50歳をターゲットにしている。そこにユニークさがある。1956年の経済白書が「もはや戦後ではない」と高らかに宣言したころに生まれた人を対象にしている。社会に出てすぐにバブル経済が始まり、働き盛りでそれが崩壊。そして長い苦難の時期を過ごしてきた世代だ。この本はその彼らに対する応援歌だといってよいだろう。

長生きリスクを回避する

投資という言葉を聞くと、「カネなんかないよ」とか、「俺はもう手遅れだよ」と言う人が多い。多分、わけのわからない金融商品でも押し付けられたらつまらないので、できるだけ近寄らないに越したことはないと思っているのかもしれない。しかし、カネが山ほどあったら別に投資なんかしなくてもいいのだ。手遅れだといったって、あと、30年や40年は生きる可能性が高いのだ。十分に長期投資で複利の効果をじっくり楽しめる余裕があり、また、それが必要であることを認識するべきだろう。

「長生きリスク」という嫌な言葉をよく耳にする。しかし、長生きリスクは国が悪いのでも会社が悪いのでもない。ただ単に、自分がきちんと現実的な将来の設計を持っていないから発生しているリスクなのだ。幸いにも50歳という年でその現実に気づけば長期投資でゆたかな生活基盤を確保するに足る資産を形成することが可能なのだ。

興味のある分野を追いかける

澤上さんは「投資なんて、安く買って高く売るだけのこと」という。「勉強もいらない」という。それは、まあ、澤上さんだから言えることかもしれない。しかし、その澤上さんも本書ではきちんと学ぶべきことを押さえている。要するに「50歳までに培った人生経験と社会で学んだ知識を活用して、目先の出来事に振り回されることなく、のんびりと５年、10年という長いスパンで投資を考えればいいのだ」ということを学ぶ。それが一番、大切で、その他の小難しい理論や技術を頭で勉強する必要はないということだろう。

本書のところどころに散りばめられている社会、産業、企業の大きな構造変化に関する記述は興味深い。50歳の知識と経験に照らして自分の興味のある分野を選び、それを追いかけてみてはどうだろうか。本当に世の中に必要だと思う企業の株式を保有して、住みやすい平和な社会を実現するために自分のおカネに働いてもらう。そして経済的自立を達成し、さらに社会貢献をしていく。その発射台になるのが50歳だと本書は説いている。筆者も同感である。

気軽に読める本だが、何十年か経つと「出合ってよかった本」になることだろう。

【岡本　和久】

■読者プレゼント■
著書のご厚意により、この著書を５名の方に差し上げます（サイン入りです）。２月28日㈬締め切りです。
ご希望の方は、Eメールかファックスで、I-OWA冨田までお知らせください（当選の発表は、本の発送にて）。
E-mail：tomitay@i-owa.com／FAX：03-5789-9822

編集後記

●先日仕事で山形に行き、蔵王温泉に泊まりました。ちょうど樹氷の季節で、初めて樹氷を見ました。なんと美しいこと！シベリアからの湿った風が、朝日連峰に突き当たって上空に上り、氷点下になっても水滴のままで飛んできたものが、アオモリトドマツに触れた瞬間に凍りつくという繰り返しによってできる、世界にたった一つの冬の華です。そんな蔵王にまた台湾からたくさんの若者がスキーやスノーボードを楽しみに来ていて、山形も国際色豊かでした。 **（伊藤　宏一）**

●《「投資ルネッサンス2007」のプロジェクト・マネジャーを努めていただいた菅編集委員より、ひと言》

投資ルネッサンス2007に参加いただいた皆さん。楽しんでいただけたでしょうか。皆さんが遠くから足を運んでくださらなければ、そして裏方に回ってくださった多くの方々が心と力を合わせてくださらなければ、このようなイベントも決して形にならなかったはずです。特に懇親会では、全国各地の長期投資家仲間の皆さんに次から次へと登場していただき、大変な元気を頂戴しました。ありがとうございました。でも、本当のお楽しみはこれからですよ。 **（菅　淑郎）**

2007年 クラブ・インベストライフ
セミナー&行事のお知らせ

●4月6日

《東京インベストライフ・セミナー》第8回

お申し込み受付中！
先着順です。お申し込みお待ちしております！
会員の輪を広げていきたいので、ぜひぜひお誘い合わせの上、ご参加ください
（会員の方とご一緒に申し込まれた非会員の方も、先着順でご参加いただけます）

■テ　ー　マ■ライフプランと長期投資
■問題提起■ファイナンシャルプランナー　伊藤宏一（編集主幹）

日　時：4月6㈮ 19：00～21：00（18：30開場）
場　所：いきいきプラザ一番町　〒102-0082　千代田区一番町12
講　師：伊藤宏一、澤上篤人、村山甲三郎、真壁昭夫、菱川精記、渋澤健、平山賢一、速水禎、菅淑郎　岡本和久（予定）
参加費：クラブ・インベストライフ会員：無料
一般（非会員）2,000円（お支払いは、当日受付）
お申し込み：ご希望の方は、①4-6東京インベストライフセミナー参加希望、②ご住所（郵便番号）、③ご氏名、④電話番号／ FAX番号、⑤E-mailアドレスをお知らせください。

※なお、お電話でのお申し込みは受け付けておりませんので、ご了承ください。

●今年の予定／●6月1日 ●8月8日 ●10月5日 ●11月30日
《東京インベストライフ・セミナー》
会場：いきいきプラザ一番町（予定）

次号予告

2007年 3月号はこんな内容です

■座談会
樹を植える
ビーボコーポレーション代表取締役　宮﨑林司氏
CSRデザイン　代表取締役　平松宏城氏

今月の表紙　厳島神社【広島県】

真っ青な海に浮かぶ朱塗りの厳島神社。竜宮城の再現か、はたまた船を渡って極楽浄土を目指すためなのか、海を敷地に神社を建立するとは、先人も粋なことを考えたものです。海水による腐食や台風被害など、維持していくにはたいへんな努力がいることでしょうが、その美しさにはだれもが魅せられてしまいます。サロン広島の立ち上げを視野に入れて、2月11日、広島でセミナーが開催されました。大阪サロンに参加されていた広島や岡山の仲間のネットワークが結実したかたちです。海を渡って、四国の会員の方もご参加いただける機会が増えるかもしれません。1.14の投資ルネッサンスの懇親会の席上、静岡の会員さんからも新サロン《フジヤマサロン》の立ち上げ構想を伺いました。クラブ・インベストライフにとって、2007が大きな意味になる年になるのでは、と期待しています。

●ご投稿や感想をお待ちしています
（郵送、E-mail、ファックスでお願いします）

▶2月号はいかがでしたでしょうか？　おもしろかった記事・つまらなかった記事などの感想や、読んでみてわからなかったことなどをお知らせください。皆様の率直なご意見をいただいて、よりよい会報誌にしていきたいと考えております。
特に、個人投資家宣言についてのご感想、ご意見などいただければ幸いです。
▶『私の長期投資哲学』『My Favorite Things』『鳥の眼 虫の眼 魚の眼』の原稿を募集しております。ご執筆可能な方、ご一報ください。
『My Favorite Things』…自分のすきな物・事の魅力をご紹介いただくコーナーです。
『私の長期投資哲学』…長期投資家としてのご経験から、ご自身の哲学をご執筆いただきます。
『鳥の眼　虫の眼　魚の眼』…地元のインベストライフ的な物・事をご紹介いただくコーナーです。
▶見本誌の在庫がまだ少しございます。「お知り合いの方に差し上げたい」、「〇〇の際にまとまって配布できる」等といったことがございましたら、ぜひお申し付けください。会員の方々の口コミで広がることが、いちばんインベストライフらしく、しかも効果的であると考えています。ご協力お願いいたします。
▶自分の地域でセミナーを開催してみたい、仲間とサロンを立ち上げたいと思っている方、ぜひご連絡ください。全国各地にインベストライフの輪が広がるきっかけを、ぜひ、あなたの手で。
▶入会時・更新時には、会報誌とともに、登録票を同封させていただいております。お手数をおかけしますが、ご記入のうえ、ご送付ください。
▶ご住所が変わられる際には、忘れずにご一報ください。事前登録ができていないと、再送に時間をいただくかたちとなります。

●I-Oウェルス・アドバイザーズ株式会社 クラブ・インベストライフ係
冨田（編集）・横溝（入会お問い合わせ・セミナー参加希望）
〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-8-6 広尾186ビル7階
E-mail:info@i-owa.com／FAX:03-5789-9822
Hp:http://www.i-owa.com/

●更新の方の振込み先:
《銀行口座》三菱東京UFJ銀行　恵比寿支店（店番136）（普）1707772
口座名義：I-Oウェルス　アドバイザーズ㈱インベストライフ口
カナ名義：アイオー ウエルス アドバイザーズ カブシキガイシャ インベストライフグチ
《郵便振込口座》00130-8-298707
口座名称：I-Oウェルス・アドバイザーズ㈱
カナ氏名：アイーオーウェルス　アドバイザーズ（カ
※可能であれば、お名前の入力欄に、併せて【104】とご記入ください。

「長期投資仲間」通信 For a Better Life

インベストライフ

2007.02

クラブ・インベストライフ会報誌

発 行 日●2007年2月10日
編集主幹●伊藤宏一
編集委員●澤上篤人　岡本和久　村山甲三郎
真壁昭夫　菱川精記　渋澤健
平山賢一　速水禎　菅淑郎
発 行 人●岡本和久
編　　集●冨田嘉子
発　　行●I-Oウェルス・アドバイザーズ株式会社
クラブ・インベストライフ係
〒150-0012　東京都渋谷区広尾1-8-6広尾186ビル7階
Tel/03-5789-9821　Fax/03-5789-9822
E-mail：info@i-owa.com
Hp：http://www.i-owa.com/
表紙イラスト●岡田　縁
デザイン・印刷●勝美印刷株式会社